



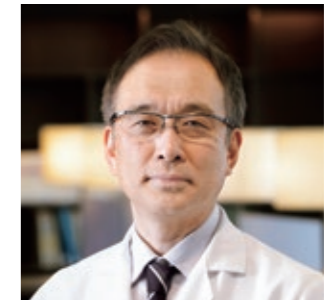
The Statistics of
The Emergency Medical Care



「コロナ禍」の中で、私たちの役割を果たす

生命の危機と向き合う救急医療は、「人間の安全保障」です。2020年、その救急医療が大変な困難に遭遇しました。

繰り返す新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の蔓延は、「救えるはずの患者の命が救えなくなる」という医療提供体制の逼迫を招いています。一方で、長引く患者の受診控えは、将来の重症化懸念をもたらしています。当院はERとICUの改修などで感染管理体制を強化し、COVID-19の迅速な診断と重症患者の集中治療を担っていますが、同時に地域の救命救急センターとして、高度急性期医療を失わない努力を続けています。この「2020年度：救急統計」には、社会不安による受療動向の変化、そしてそれに向きあった私たちの活動が纏められています。



病院長
中尾 浩一

2020年度の救急患者数は16,051名（前年度比 -14.0%）でした。そのうち救急車等による搬送患者数は、7,752名（全受診者の48.3%）であり、前年度に比し1,053件（前年度比 -12.0%）減少しました。入院となった患者数は6,959名と321名減少しましたが、全救急外来受診者に占める入院比率は、昨年度の39.0%から43.4%へ上昇し、24時間以内の緊急手術は実数で32名増加し、比率でも4.6%から5.5%と上昇しています。入院率や緊急手術割合の増加は、より重症化してから受診する傾向の反映と思われる。感染拡大に伴う行動抑制のためか、外傷患者数は減少しました。二次医療圏別に見ますと、熊本市、上益城、宇城医療圏からの紹介搬送が88.6%でした。救急ホットラインの応需率は、99.1%であり、初めて目標である99%以上の応需を達成しました。

2020年7月、熊本は豪雨災害にも襲われました。当院からは人吉・球磨地域にDMAT 4隊を派遣し、人吉市内の病院及び八代市内の避難所へ14名の看護師を支援のため派遣しました。その経験をもとに、より一層行政・消防との連携を密にした活動を行うべく、2021年4月には「救急・災害医療対策室」を創設しています。感染状況から集合することが大変厳しくなってきましたので、済生メディコン会はWEB開催とし、救急医療に携わる皆様と学び合う機会を失わないよう努めています。

今、熊本は、感染症第5波の急速な拡大と、長雨による水害という2つの危機に直面していますが、歴史上終わらなかったパンデミックはなく、また止まなかった雨はありません。地域の「救命救急センター」であり、「災害拠点病院」である私たちは、皆様との連携をさらに強固なものとして、その役割をしっかりと果たして参りたいと思います。

救急統計2020の発刊にあたり

未だ収束の見えないCOVID-19パンデミック第5波の真っ只中、2020年度の済生会熊本病院救急統計を上梓させていただきます。2020年度を簡単に振り返りますと、熊本でも2020年2月下旬に初めての陽性患者が確認されて以降、4月中旬には、緊急事態宣言が全国に拡大され、感染者数は1万人を突破。一旦第1波は収束傾向となり、5月下旬には緊急事態宣言が全面解除されましたが、それを後追いつけるかたちで感染者数が再漸増。都市部では、クラスターの発生も散発する中、7月3日に、熊本県南部地域（八代、芦北、水俣、人吉）を中心に九州、中部地方など日本各地で線状降水帯が多数発生し、近年まれに見る集中豪雨が約1ヶ月にわたり長期化して襲いました。南部水害による直接の死亡は60名を越え、4年前の熊本地震の直接死を上回る結果となりました。当院のDMATも4隊が現地に出勤し、統括DMATとして県庁内の災害対策本部にも長期に渡り活動しました。水害対応中には、幸いにもCOVID-19のクラスター発生は免れましたが、7月に予定していました第3回熊本4Rメディカルラリーの開催は中止となりました。日本国内では年末から年始にかけて発生した第3波による医療崩壊が叫ばれましたが、何とか耐えしのいだ1年でした。2021年度に入っても現在8月時点で第5波に突入して状況は更に厳しさを増しております。ワクチン接種は高リスク対象者がすでに終了し、若年～壮年者への接種が進んでいる現状で、暗闇から若干灯りの見え始めている印象はあります。しかし、まだ先の見えない状況は依然続いており、New Normalと言う言葉を聞くことも少なくなりましたが、混沌状態に変わりはありません。

改めて2020年度の当院救急に関する統計数値を見てみますと、2019年度以前と比較して救急患者数の受け入れは、救急車約12%、ウォークイン約16%の減少。救急外来経由の入院は、約4%程度の減少、緊急手術の件数はほぼ変化がありません。これらから推測されることの一つに軽症者を中心にCOVID-19による受診控え、言い換えれば救急車の適正利用に繋がっている可能性があります。ただ、本来救急受診すべき中・重症者の一部にも受診控えが生じ、病態の悪化に繋がっていることが懸念されます。更に外傷患者の減少は、これもCOVID-19による不要不急の外出の抑制、緊急事態宣言等による屋外での活動が減少し、交通事故発生数の減少などが影響していると考えています。

対外的活動として、研修医・看護師プレホスピタル研修、4Rメディカルラリーは2020年度は全て中止となりました。毎月第3水曜日約250回を数える救急隊との勉強会「済生メディコン会」は年度初めは中止となっていました。9月からはオンラインにより再開し熊本市、宇城、上益城の3消防の救急隊とのオンライン・メディコン会も現在は、運用にも大分慣れて逆に参加者が増えている状態です。これまで遠方で物理的、時間的に制約のあった他の消防も参加のチャンスが出てきたことなどは、new normalと言えるのかもしれませんが。次年度に報告予定の救急統計2021年度版では、COVID-19を中心としたコメントとなりそうな現状です。



救命救急センター長
前原 潤一

2021年8月

救急統計2020の発刊にあたり

院長 中尾 浩一
救命救急センター長 前原 潤一

救急統計

1.2016年度～2020年度救急統計概要(5年推移)	2
2.来院手段	
2-1.5年推移(2016年度～2020年度)	3
2-2.月別	3
2-3.曜日別	4
2-4.時間帯別	5
3.転帰内容(5年推移)	6
4.年齢構成	7
5.CPA数	8
5-1.受入件数	8
5-2.E-CPR実績	8
6.救急ホットライン応需数	9
7.救命救急センター42床への入院患者数	
7-1.診療科別患者数	9
7-2.疾患別患者数(TOP20)	10
7-3.転帰別患者数	11
7-4.外傷データバンク(AIS・ISS別患者数)	11
8.紹介患者数	
8-1.紹介患者の転帰	12
8-2.二次保健医療圏別紹介患者数	12
9.医師(現場)出動件数	13
10.救急隊搬送件数	14
11.二次保健医療圏	
11-1.患者数	16
11-2.来院手段別	18

記事

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)への対応	30
救命救急外来の改修工事	31
令和2年7月豪雨災害へのDMAT派遣	32
救急・災害医療対策室の新設	32
済生メディコン会のWEB開催	33

救急統計

The Statistics of The Emergency Medical Care

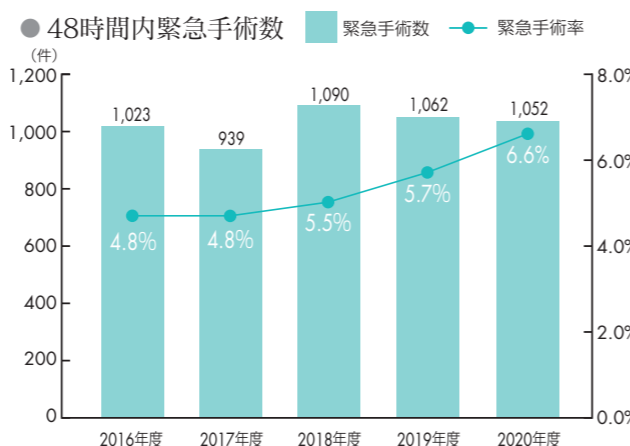
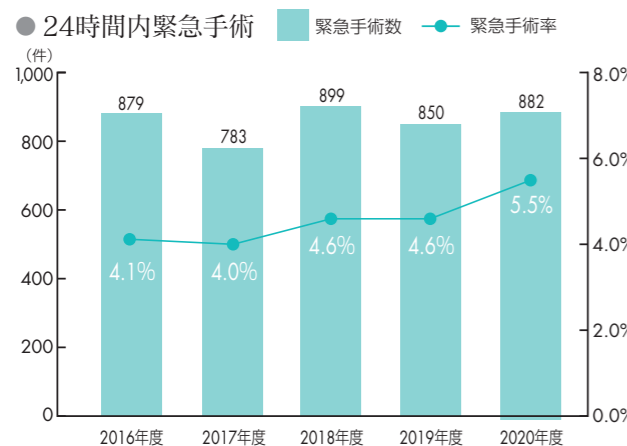
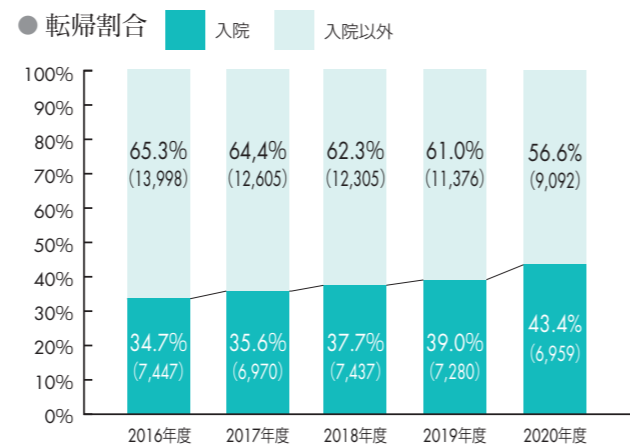
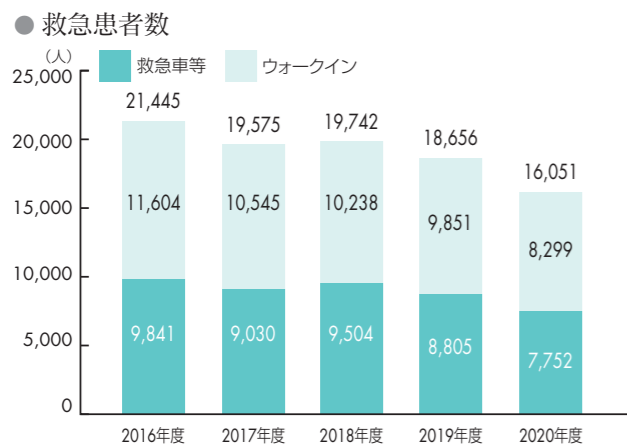
2020

Contents

1 2016年度～2020年度救急統計概要《5年推移》

年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度	
救急患者数		21,445		19,575		19,742		18,656		16,051	
ウォークイン ※1		11,604	54.1%	10,545	53.9%	10,238	51.9%	9,851	52.8%	8,299	51.7%
救急車等 ※2		9,841	45.9%	9,030	46.1%	9,504	48.1%	8,805	47.2%	7,752	48.3%
性別	男性	11,639	54.3%	10,910	55.7%	10,615	53.8%	10,182	54.6%	8,947	55.7%
	女性	9,806	45.7%	8,665	44.3%	9,127	46.2%	8,474	45.4%	7,104	44.3%
平均年齢	入院	73.0		73.1		74.0		74.5		74.7	
	入院以外 ※3	59.2		59.8		60.4		60.6		61.2	
	全体	64.0		64.5		65.5		66.0		67.0	
転帰	入院	7,447	34.7%	6,970	35.6%	7,437	37.7%	7,280	39.0%	6,959	43.4%
	入院以外 ※3	13,998	65.3%	12,605	64.4%	12,305	62.3%	11,376	61.0%	9,092	56.6%
緊急手術 ※4	24時間内	879	4.1%	783	4.0%	899	4.6%	850	4.6%	882	5.5%
	48時間内	1,023	4.8%	939	4.8%	1,090	5.5%	1,062	5.7%	1,052	6.6%

※1 ウォークインとは、独歩、自家用車のこと
 ※2 救急車等とは、救急車、病院車 ※5、防災ヘリ、Dr.ヘリ、MCCUのこと
 ※3 入院以外とは、転帰が軽快・転医・死亡のこと
 ※4 緊急手術患者数とは救急外来受診後、緊急手術を要すると判断された患者数のこと（当院緊急手術区分該当者）
 ※5 病院車とは、各医療機関所有の病院救急車・患者搬送車のこと



2 来院手段

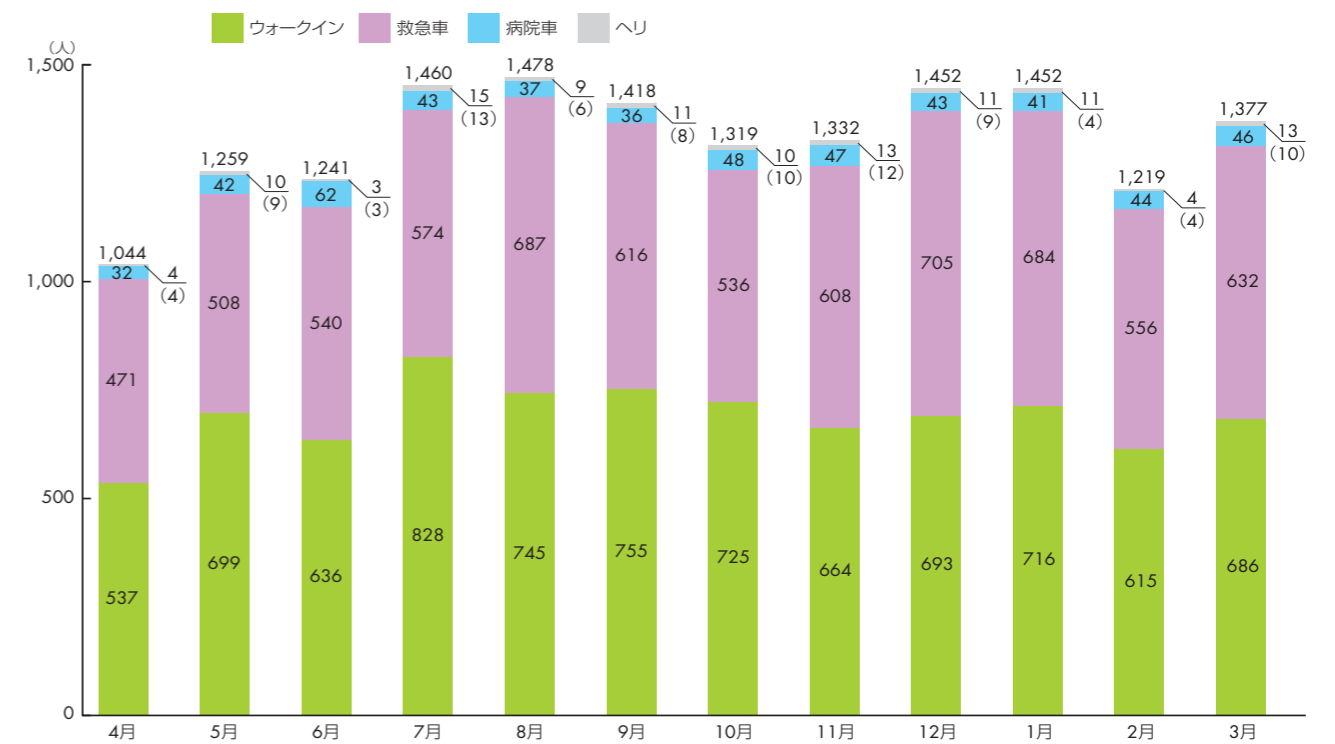
2-1 5年推移 (2016年度～2020年度)

来院手段	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	
ウォークイン	11,604	10,545	10,238	9,851	8,299	
救急車等	救急車	8,794	8,123	8,611	8,048	7,117
	病院車	863	741	739	618	521
	ヘリ	184 (148)	166 (135)	154 (116)	139 (113)	114 (92)
合計	21,445	19,575	19,742	18,656	16,051	

※ヘリ件数は Dr.ヘリと防災ヘリの合算。
 ※ヘリ件数の括弧内は Dr.ヘリ件数。

2-2 月別

来院手段	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
ウォークイン	537	699	636	828	745	755	725	664	693	716	615	686	8,299	
救急車等	救急車	471	508	540	574	687	616	536	608	705	684	556	632	7,117
	病院車	32	42	62	43	37	36	48	47	43	41	44	46	521
	ヘリ	4 (4)	10 (9)	3 (3)	15 (13)	9 (6)	11 (8)	10 (10)	13 (12)	11 (9)	11 (4)	4 (4)	13 (10)	114 (92)
合計	1,044	1,259	1,241	1,460	1,478	1,418	1,319	1,332	1,452	1,452	1,219	1,377	16,051	

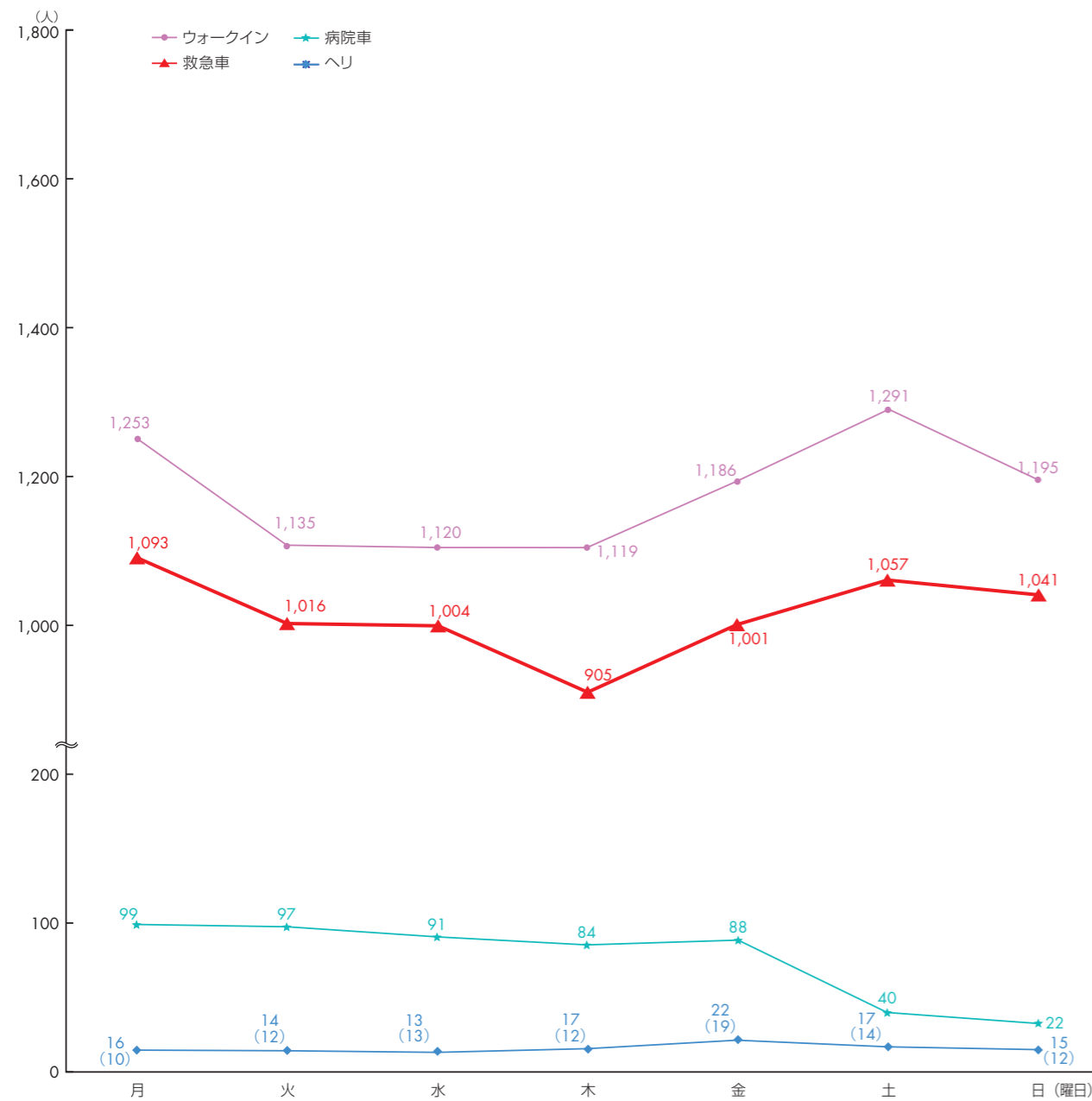


2 来院手段

2-3 曜日別

来院手段	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	合計
ウォークイン	1,253	1,135	1,120	1,119	1,186	1,291	1,195	8,299
救急車等	救急車	1,093	1,016	1,004	905	1,001	1,057	7,117
	病院車	99	97	91	84	88	40	521
	ヘリ	16 (10)	14 (12)	13 (13)	17 (12)	22 (19)	17 (14)	15 (12)
合計	2,461	2,262	2,228	2,125	2,297	2,405	2,273	16,051

※ヘリ件数はDr.ヘリと防災ヘリの合算。
※ヘリ件数の括弧内はDr.ヘリ件数。

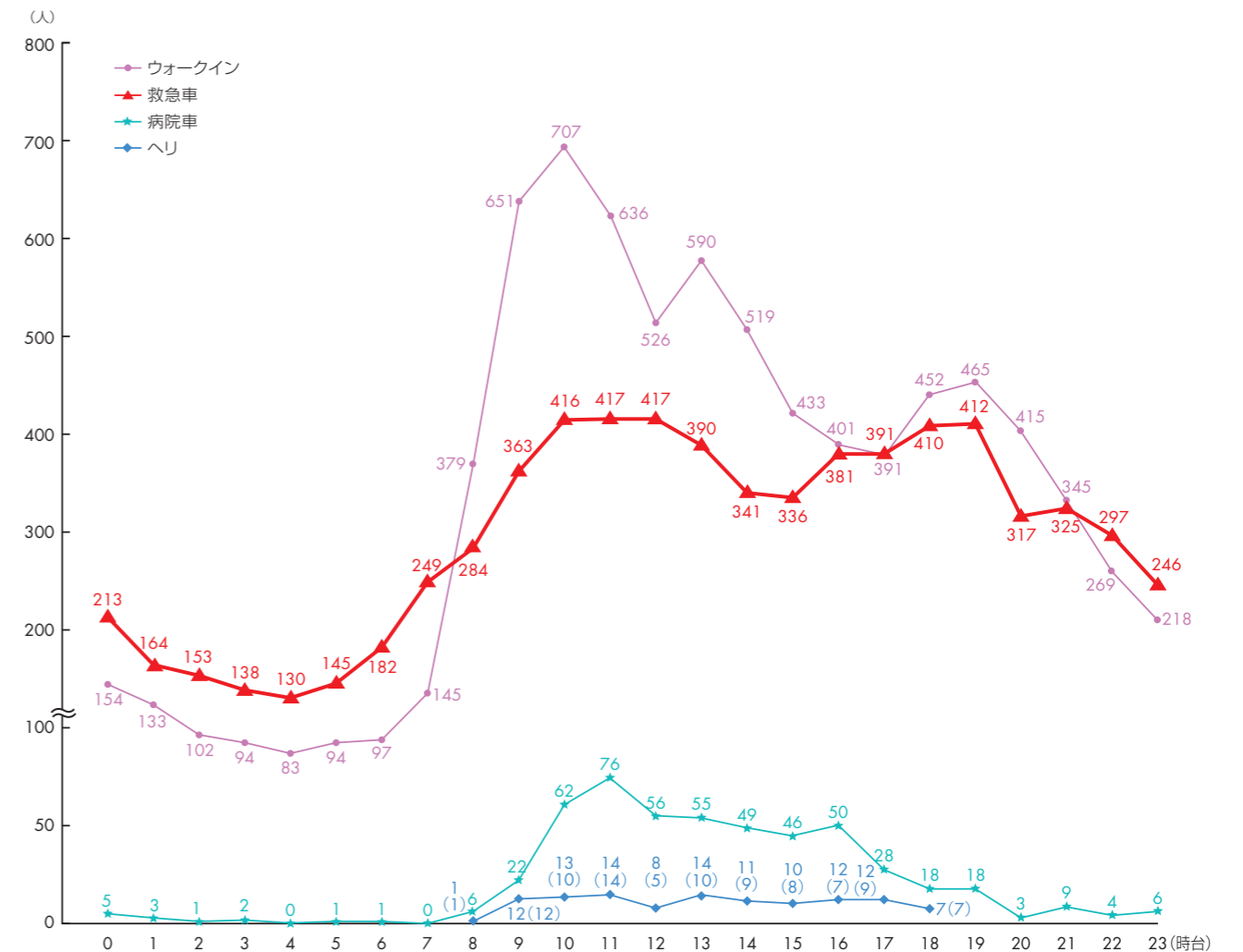


2-4 時間帯別

来院手段	0時台	1時台	2時台	3時台	4時台	5時台	6時台	7時台	8時台	9時台	10時台	11時台	12時台
ウォークイン	154	133	102	94	83	94	97	145	379	651	707	636	526
救急車等	救急車	213	164	153	138	130	145	182	249	284	363	416	417
	病院車	5	3	1	2	0	1	1	0	6	22	62	76
	ヘリ	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (1)	12 (12)	13 (10)	14 (14)
合計	372	300	256	234	213	240	280	394	670	1,048	1,198	1,143	1,007

来院手段	13時台	14時台	15時台	16時台	17時台	18時台	19時台	20時台	21時台	22時台	23時台	合計
ウォークイン	590	519	433	401	391	452	465	415	345	269	218	8,299
救急車等	救急車	390	341	336	381	391	410	412	317	325	246	7,117
	病院車	55	49	46	50	28	18	18	3	9	4	521
	ヘリ	14 (10)	11 (9)	10 (8)	12 (7)	12 (9)	7 (7)	0	0	0	0	0
合計	1,049	920	825	844	822	887	895	735	679	570	470	16,051

※ヘリ件数はDr.ヘリと防災ヘリの合算。
※ヘリ件数の括弧内はDr.ヘリ件数。

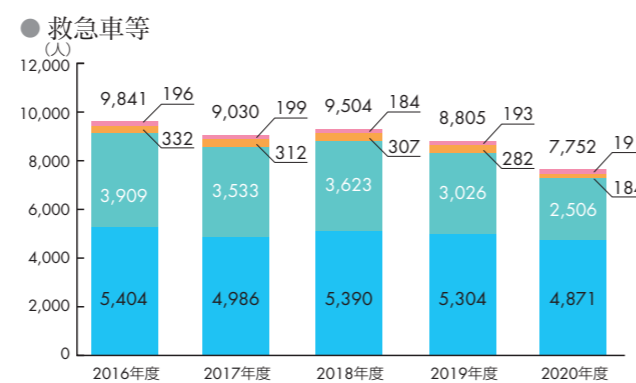
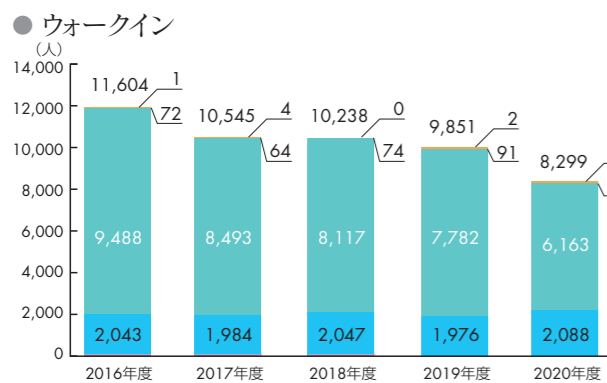
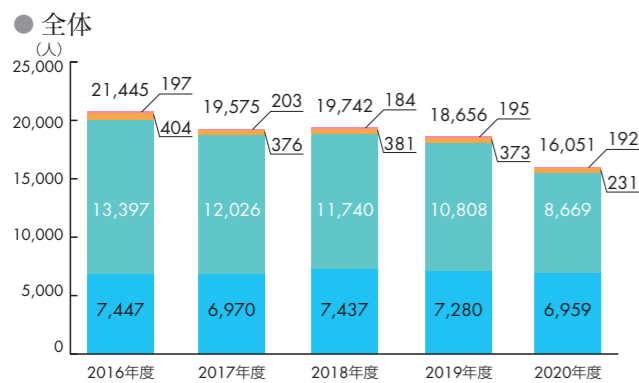


3 転帰内容《5年推移》

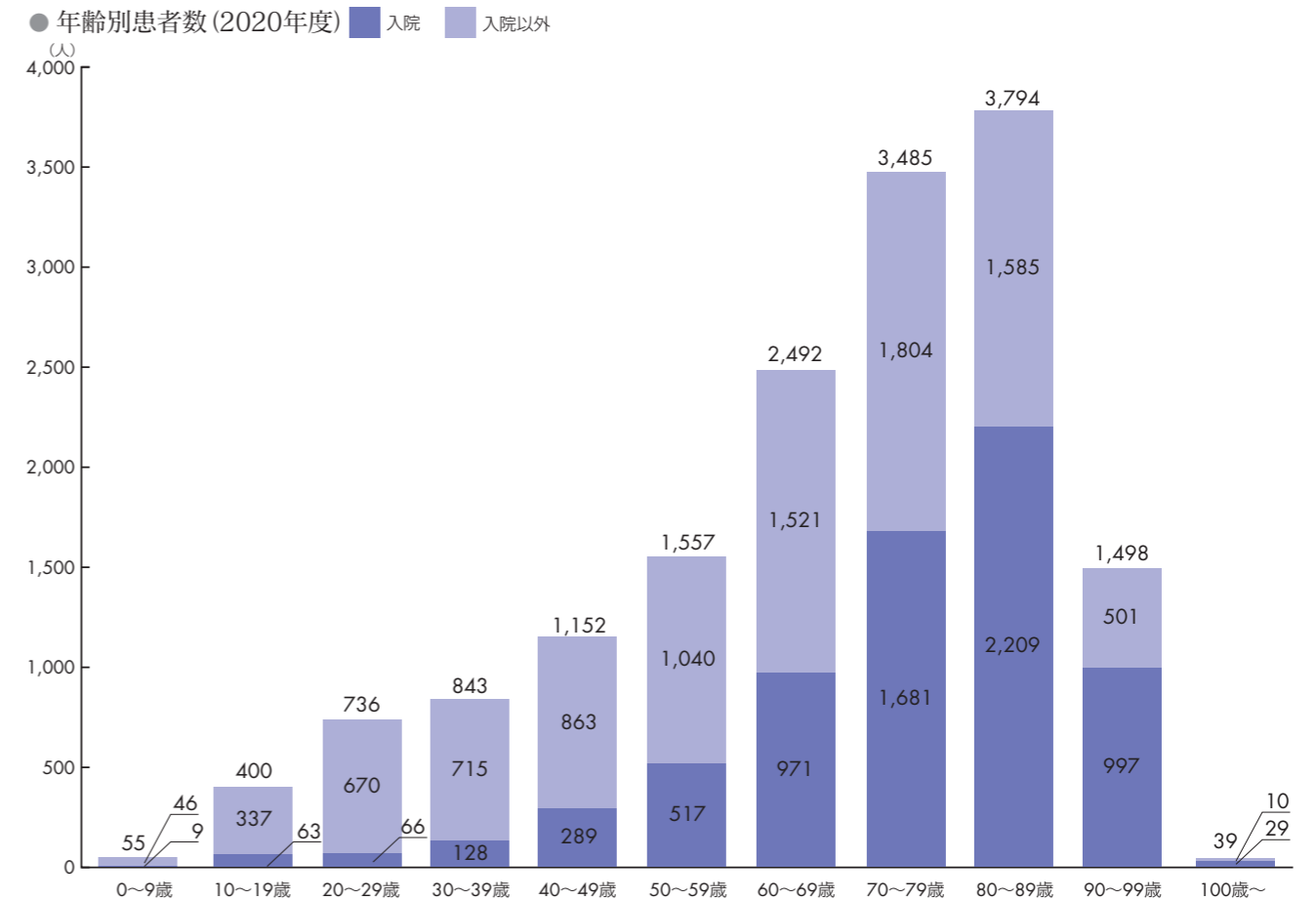
転 帰	2016年度				2017年度			
	ウォークイン	救急車等	合計	全体割合	ウォークイン	救急車等	合計	全体割合
入 院	2,043	5,404	7,447	34.7%	1,984	4,986	6,970	35.6%
帰 宅	9,488	3,909	13,397	62.5%	8,493	3,533	12,026	61.4%
転 院	72	332	404	1.9%	64	312	376	1.9%
死 亡	1	196	197	0.9%	4	199	203	1.1%
合 計	11,604	9,841	21,445	100.0%	10,545	9,030	19,575	100.0%

転 帰	2018年度				2019年度			
	ウォークイン	救急車等	合計	全体割合	ウォークイン	救急車等	合計	全体割合
入 院	2,047	5,390	7,437	37.7%	1,976	5,304	7,280	39.0%
帰 宅	8,117	3,623	11,740	59.5%	7,782	3,026	10,808	57.9%
転 院	74	307	381	1.9%	91	282	373	2.0%
死 亡	0	184	184	0.9%	2	193	195	1.1%
合 計	10,238	9,504	19,742	100.0%	9,851	8,805	18,656	100.0%

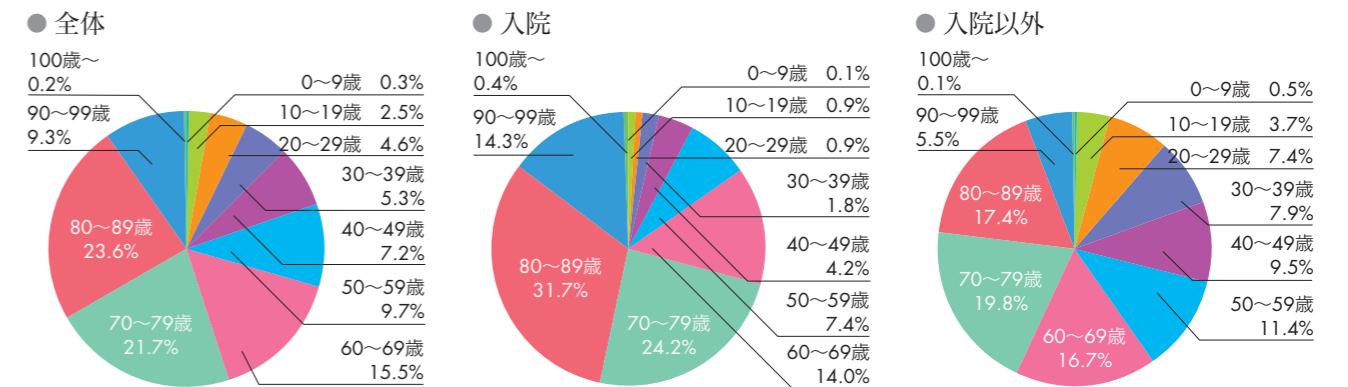
転 帰	2020年度			
	ウォークイン	救急車等	合計	全体割合
入 院	2,088	4,871	6,959	43.4%
帰 宅	6,163	2,506	8,669	54.0%
転 院	47	184	231	1.4%
死 亡	1	191	192	1.2%
合 計	8,299	7,752	16,051	100.0%



4 年齢構成



《年齢別患者数の割合》



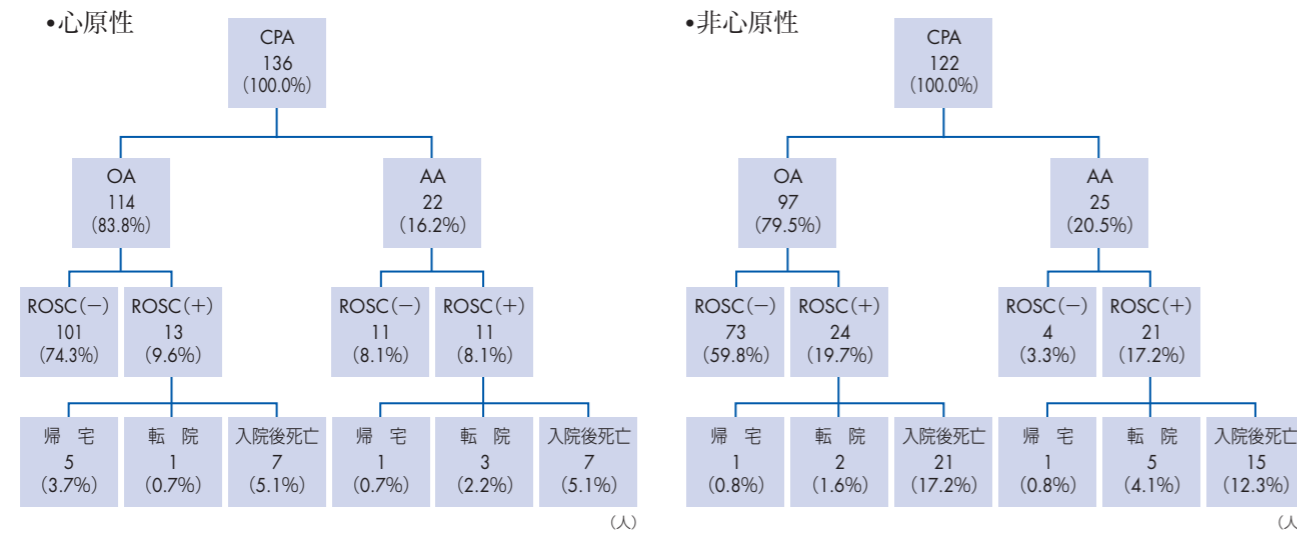
5 CPA数 [CPA (cardio pulmonary arrest) : 心肺停止]

5-1 受入件数

内 訳	2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度	
OA ROSC (-)	179	63.5%	173	68.1%	150	59.5%	159	61.9%	174	67.4%
OA ROSC (+) ※車内ROSC (+) 含む	61	21.6%	44	17.3%	44	17.5%	52	20.2%	37	14.3%
AA ROSC (-)	20	7.1%	25	9.9%	32	12.7%	24	9.3%	15	5.8%
AA ROSC (+)	22	7.8%	12	4.7%	26	10.3%	22	8.6%	32	12.4%
合 計	282	100.0%	254	100.0%	252	100.0%	257	100.0%	258	100.0%

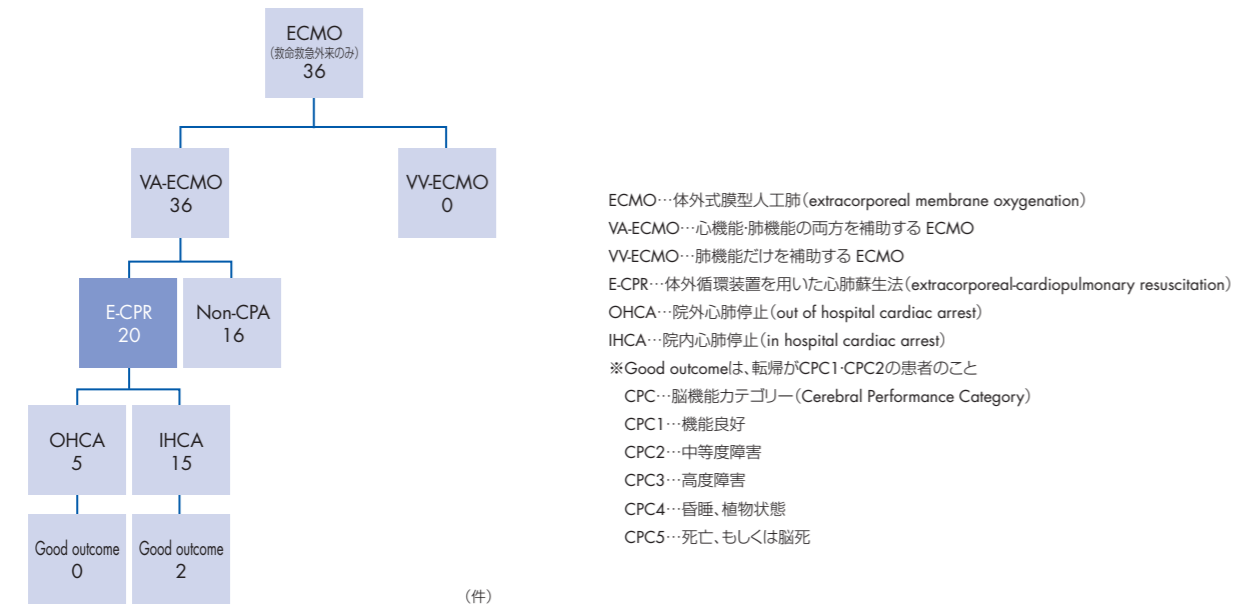
OA…到着 (来院) 時心肺停止 AA…到着 (来院) 直後心肺停止 ROSC…心拍再開 (return of spontaneous circulation)

● 2020年度



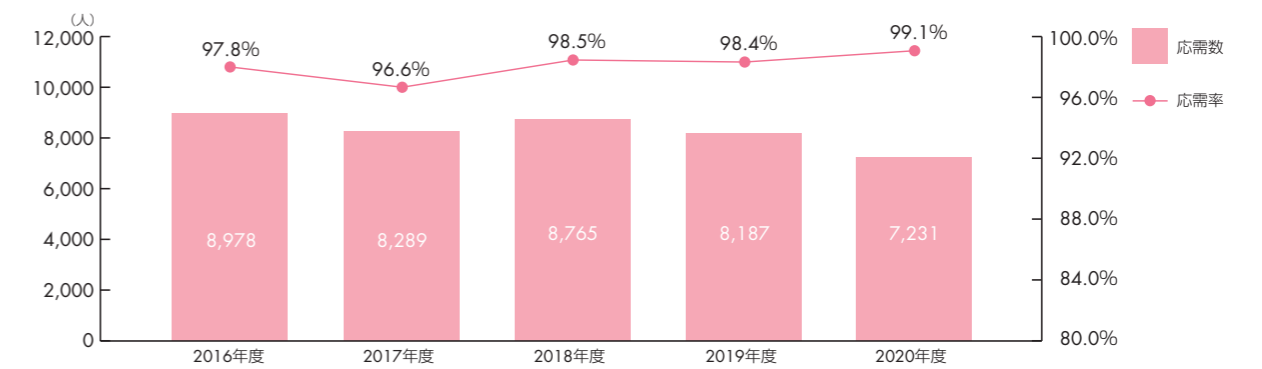
5-2 E-CPR 実績

● 2020年度



6 救急ホットライン応需数

種 別	2016年度			2017年度			2018年度			2019年度			2020年度		
	件数	応需数	応需率	件数	応需数	応需率	件数	応需数	応需率	件数	応需数	応需率	件数	応需数	応需率
救急車	8,987	8,794	97.9%	8,412	8,123	96.6%	8,743	8,611	98.5%	8,178	8,048	98.4%	7,178	7,117	99.2%
ドクターヘリ	155	148	95.5%	138	135	97.8%	121	116	95.9%	116	113	97.4%	95	92	96.8%
防災ヘリ	36	36	100.0%	31	31	100.0%	38	38	100.0%	26	26	100.0%	23	22	95.7%
合 計	9,178	8,978	97.8%	8,581	8,289	96.6%	8,902	8,765	98.5%	8,320	8,187	98.4%	7,296	7,231	99.1%



7 救命救急センター 42 床への入院患者数

7-1 診療科別患者数

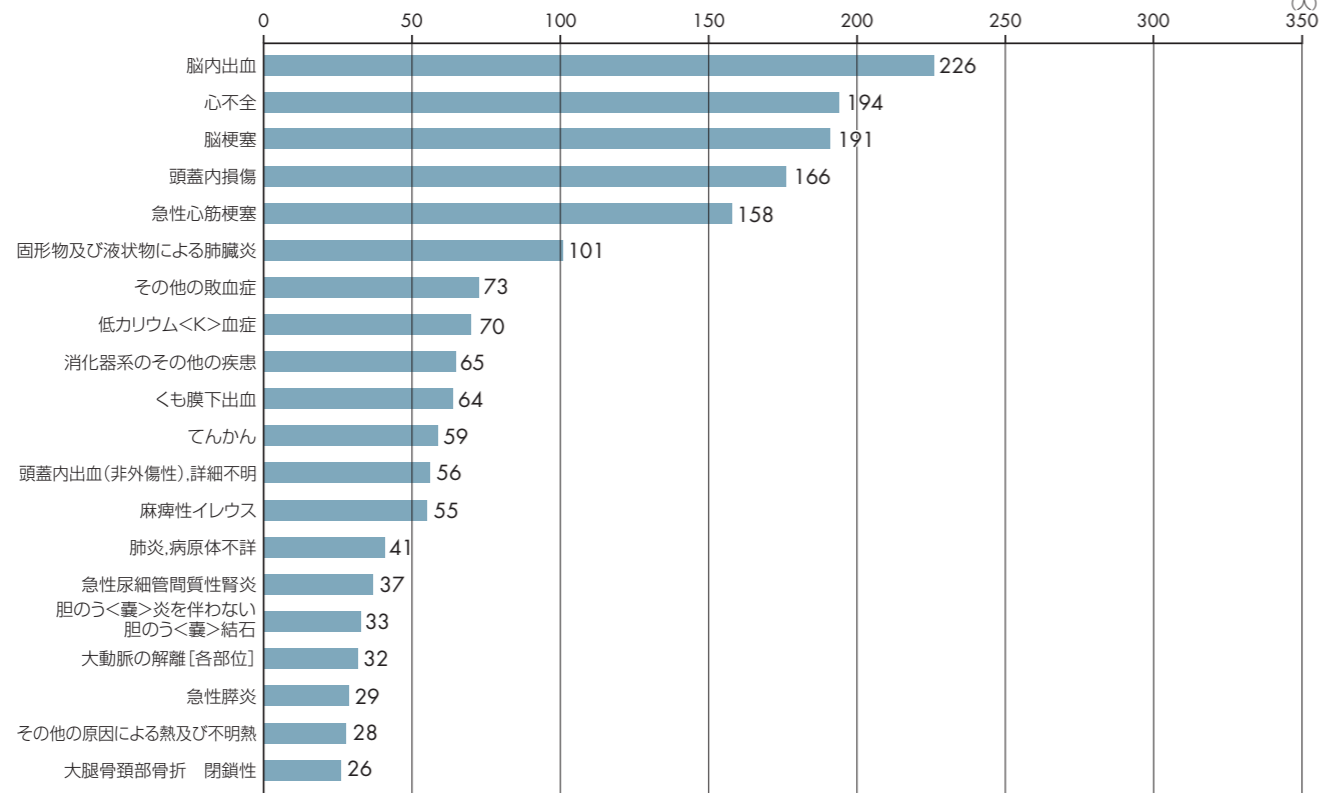
診療科	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
脳神経外科	721	694	695	622	537
救急・総合診療科	561	564	469	495	484
循環器内科	465	577	473	489	472
消化器内科	314	277	326	263	291
脳神経内科	492	484	442	384	257
呼吸器科	206	233	284	295	253
外科	166	208	155	120	125
整形外科	56	68	69	75	93
腎・泌尿器科	65	107	81	80	80
心臓血管外科	14	72	9	14	21
糖尿病内科	20	14	14	16	11
包括診療科				3	5
総合腫瘍科	6	10	7	7	3
合 計	3,086	3,308	3,024	2,863	2,632

7 救命救急センター 42 床への入院患者数

7-2 疾患別患者数 (TOP20)

疾患 (TOP20)	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
脳内出血	283	272	241	256	226
心不全	173	181	178	159	194
脳梗塞	311	326	295	291	191
頭蓋内損傷	271	259	286	234	166
急性心筋梗塞	129	209	160	177	158
固形物及び液状物による肺炎	65	73	86	96	101
その他の敗血症	70	70	38	57	73
低カリウム<K>血症	30	64	58	63	70
消化器系のその他の疾患	61	52	86	55	65
くも膜下出血	108	101	89	85	64
てんかん	109	99	105	68	59
頭蓋内出血 (非外傷性), 詳細不明	43	49	58	32	56
麻痺性イレウス	49	61	62	48	55
肺炎, 病原体不詳	43	35	52	32	41
急性尿細管間質性腎炎	12	14	24	38	37
胆のう<嚢>炎を伴わない胆のう<嚢>結石	34	60	53	43	33
大動脈の解離 [各部位]	49	94	20	34	32
急性膵炎	34	34	21	24	29
その他の原因による熱及び不明熱	22	19	23	26	28
大腿骨頸部骨折 閉鎖性	17	8	15	19	26

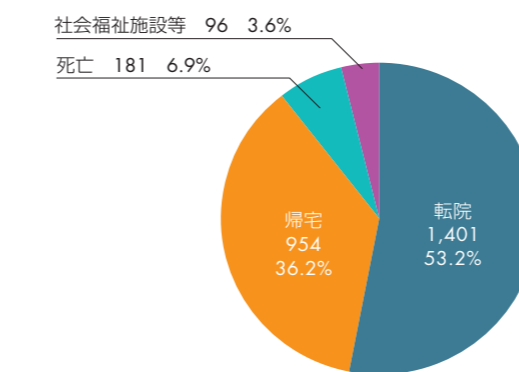
● 疾患別患者数 TOP20 (2020年度)



7-3 転帰別患者数

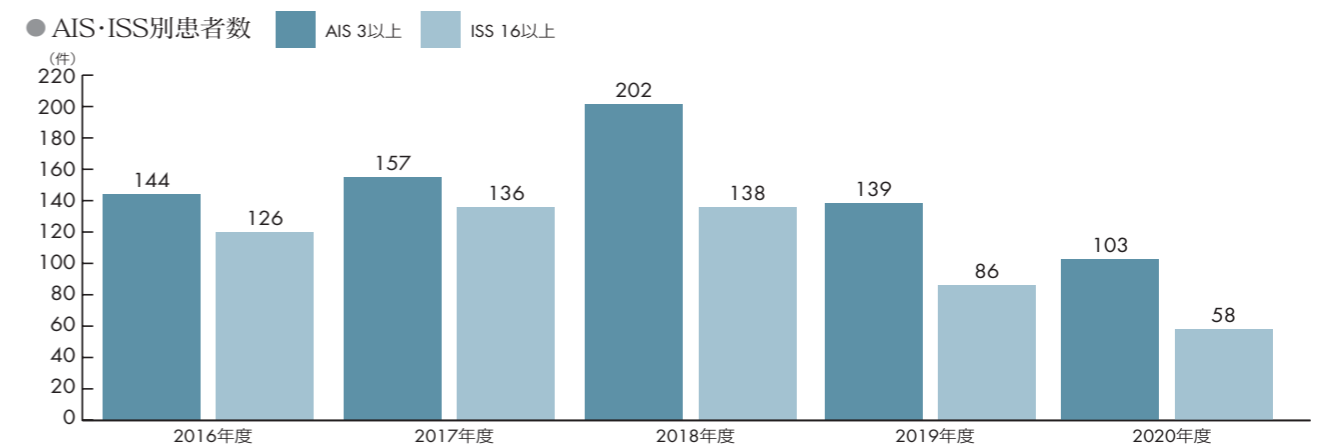
転 帰	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
転院	1,549	1,701	1,590	1,537	1,401
帰宅	1,126	1,216	1,142	1,040	954
死亡	277	274	164	191	181
社会福祉施設等	129	116	128	95	96
合 計	3,086	3,308	3,024	2,863	2,632

● 2020年度



7-4 外傷データベース (AIS・ISS 別患者数)

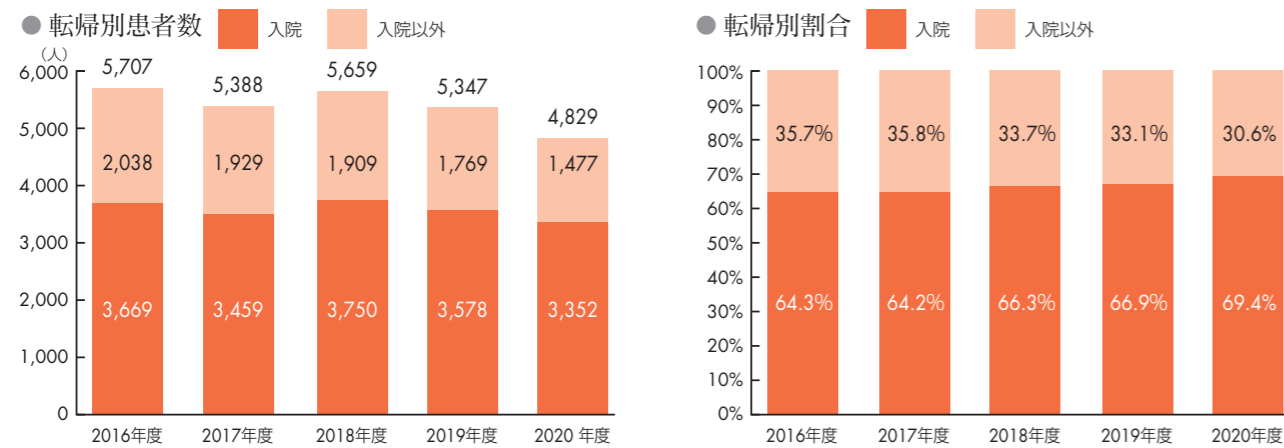
AIS (部位や損傷形態、重症度を表す) 3以上とISS (多部位、多発損傷を表す) 16以上の件数



8 紹介患者数

8-1 紹介患者の転帰

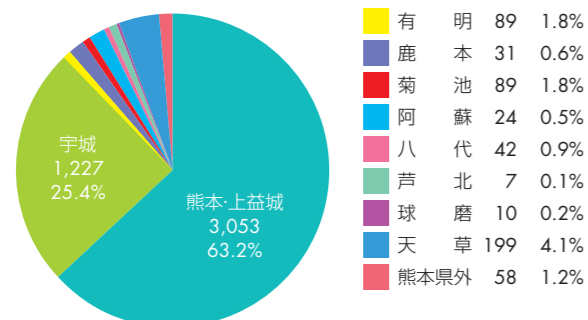
		(人)				
転帰		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
紹介患者数	入院	3,669	3,459	3,750	3,578	3,352
	入院以外	2,038	1,929	1,909	1,769	1,477
	合計	5,707	5,388	5,659	5,347	4,829



8-2 二次保健医療圏別紹介患者数 (患者の居住区を基準としている)

二次保健医療圏		(人)				
		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
熊本県内	熊本・上益城	3,577	3,395	3,613	3,323	3,053
	宇城	1,368	1,291	1,310	1,306	1,227
	有明	141	126	110	99	89
	鹿本	45	51	37	42	31
	菊池	115	118	90	117	89
	阿蘇	60	43	52	56	24
	八代	42	35	44	57	42
	芦北	13	14	31	13	7
	球磨	27	26	33	16	10
	天草	210	198	237	234	199
熊本県外	109	91	102	84	58	
合計		5,707	5,388	5,659	5,347	4,829

● 2次医療圏別患者数割合 (2020年度)

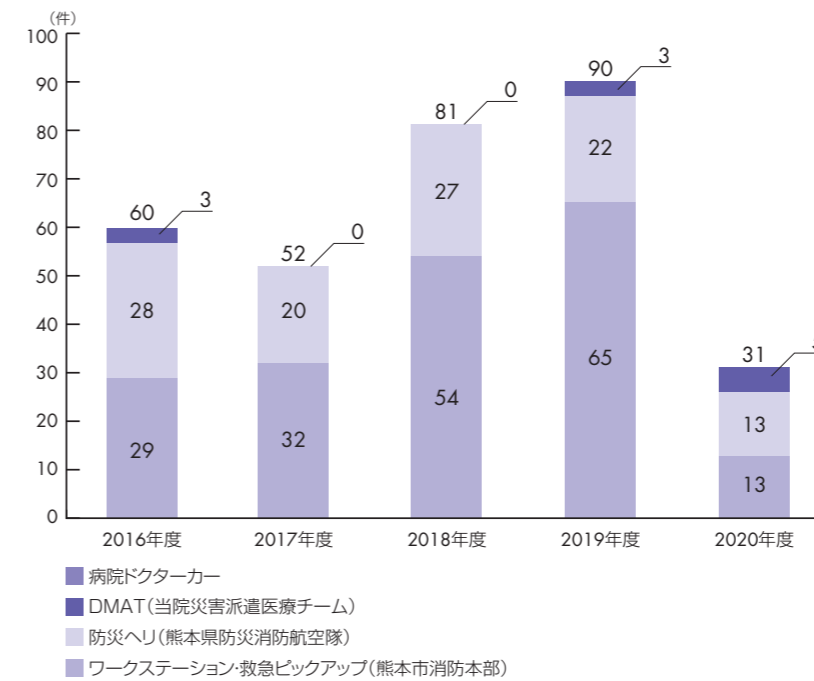


9 医師(現場)出動件数

医師による(現場)出動件数。

車両	(件)				
	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
ワークステーション・救急ピックアップ (熊本市消防本部)	29	32	54	65	13
防災ヘリ (熊本県防災消防航空隊)	28	20	27	22	13
病院ドクターカー	0	0	0	3	0
DMAT (当院災害派遣医療チーム)	3	0	0	0	5
合計	60	52	81	90	31

※出動内容
 ・ワークステーションドクターカーは現場出動
 ・防災ヘリは患者搬送のための搭乗
 ・DMATは熊本地震による災害現場出動



車両	(件)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ワークステーション・救急ピックアップ (熊本市消防本部)	0	1	0	0	0	0	7	1	4	0	0	0	13
防災ヘリ (熊本県防災消防航空隊)	1	1	0	2	1	1	0	0	1	4	0	2	13
病院ドクターカー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
DMAT (当院災害派遣医療チーム)	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	5
合計	1	2	0	7	1	1	7	1	5	4	0	2	31

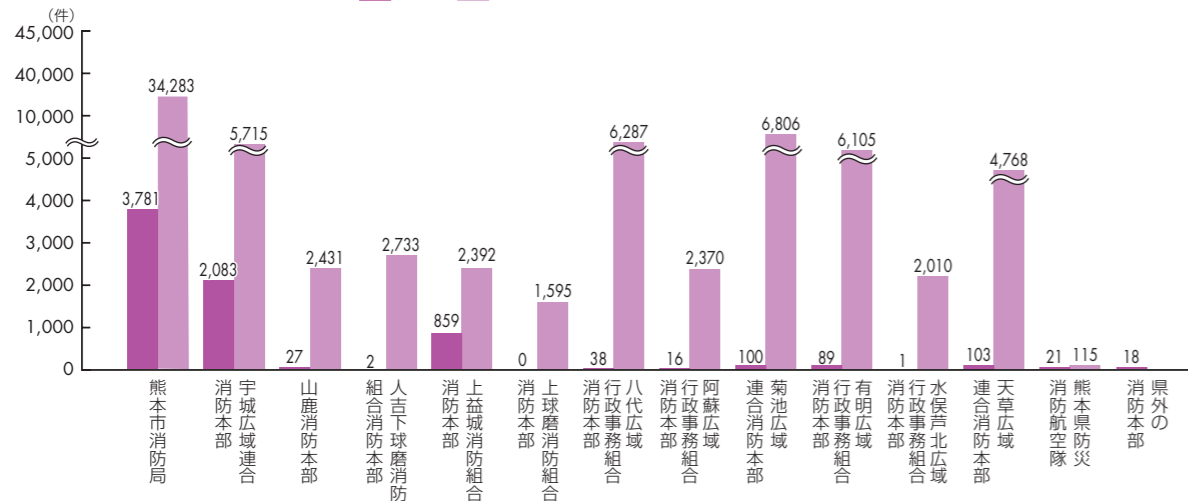
※ 4～9月及び1～3月は、新型コロナウイルス流行の影響によりワークステーション活動を休止
 ※ DMATは、7月の熊本県南部を中心とした豪雨災害へ派遣

10 救急隊搬送件数

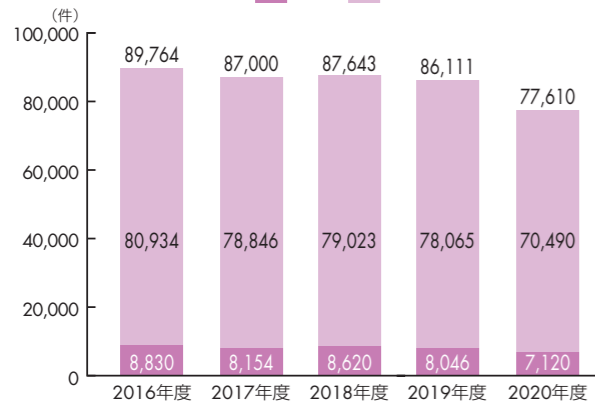
(件)

消防本部	2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度	
	当院	全体	当院	全体	当院	全体	当院	全体	当院	全体
熊本市消防局	4,686	40,551	4,315	38,539	4,713	39,182	4,339	39,027	3,781	34,283
宇城広域連合消防本部	2,386	6,672	2,194	6,377	2,306	5,987	2,171	6,255	2,083	5,715
山鹿市消防本部	36	2,698	42	2,729	40	2,797	34	2,644	27	2,431
人吉下球磨消防組合消防本部	3	2,636	5	2,849	5	2,689	8	2,885	2	2,733
上益城消防組合消防本部	1,215	3,092	1,177	2,936	1,155	2,788	1,081	2,794	859	2,392
上球磨消防組合消防本部	0	1,511	1	1,436	0	1,378	0	1,465	0	1,595
八代広域行政事務組合消防本部	20	6,827	23	6,739	28	7,357	38	6,734	38	6,287
阿蘇広域行政事務組合消防本部	28	3,136	28	2,777	29	3,057	24	2,620	16	2,370
菊池広域連合消防本部	117	7,826	123	8,272	106	7,594	109	7,543	100	6,806
有明広域行政事務組合消防本部	155	6,991	114	6,728	98	6,946	96	6,489	89	6,105
水俣芦北広域行政事務組合消防本部	3	2,281	7	2,137	8	2,159	5	2,204	1	2,010
天草広域連合消防本部	72	5,298	74	5,172	94	5,355	115	5,286	103	4,768
熊本県防災消防航空隊	36	245	31	309	38	354	26	165	21	115
県外の消防本部	73	-	20	-	29	-	28	-	18	-
合計	8,830	89,764	8,154	87,000	8,649	87,643	8,074	86,111	7,138	77,610

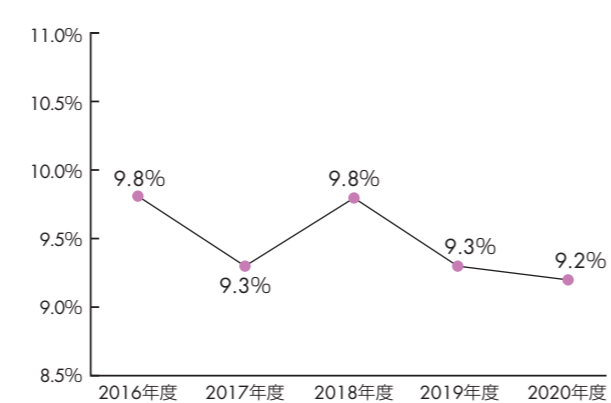
● 消防本部別 (2020年度) ■ 当院 ■ 全体



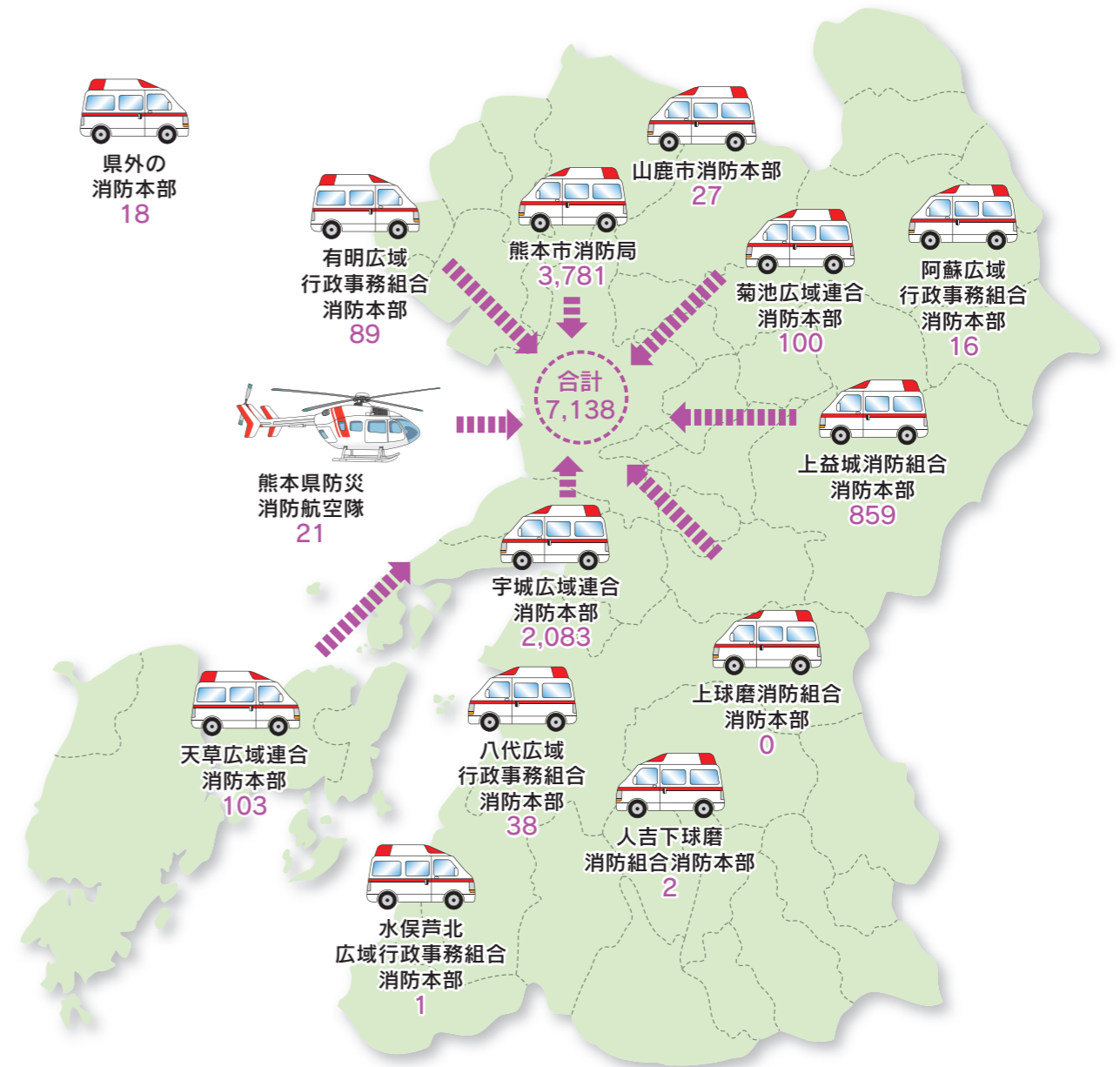
● 救急隊搬送件数 ■ 当院 ■ 他の医療機関



● 県全体から見た当院への救急隊搬送割合



● 当院への搬送件数 (2020年度)



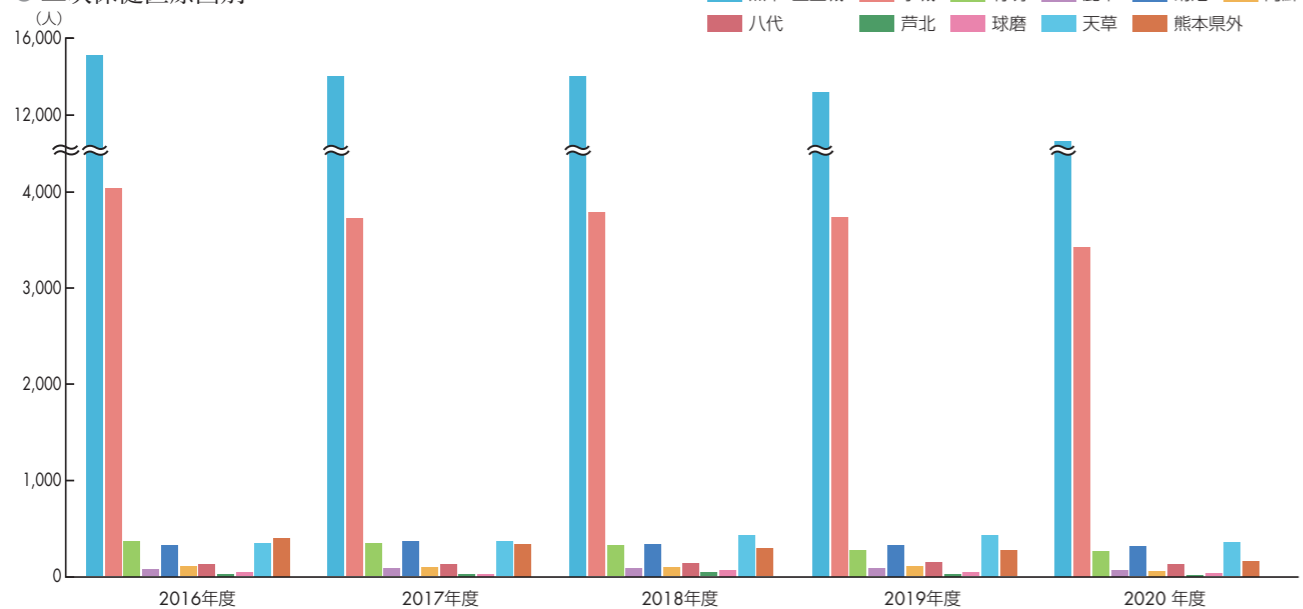
11 二次保健医療圏

11-1 患者数

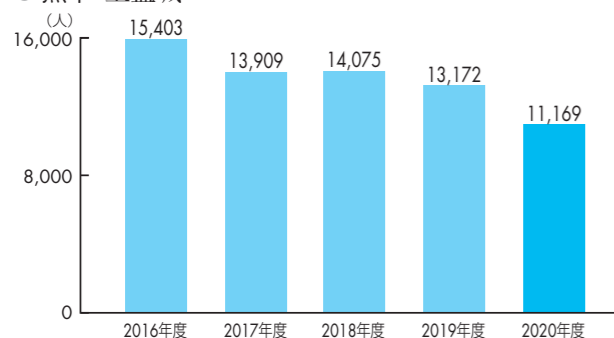
患者の居住区を基に二次保健医療圏で表した。

二次保健医療圏		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度	
熊本県内	熊本・上益城	15,403	71.9%	13,909	71.0%	14,075	71.3%	13,172	70.6%	11,169	69.6%
	宇城	4,102	19.1%	3,781	19.3%	3,839	19.4%	3,777	20.2%	3,477	21.7%
	有明	371	1.7%	357	1.8%	327	1.7%	275	1.5%	268	1.7%
	鹿本	98	0.5%	95	0.5%	89	0.5%	83	0.4%	70	0.4%
	菊池	359	1.7%	379	1.9%	343	1.7%	328	1.8%	314	2.0%
	阿蘇	128	0.6%	100	0.5%	94	0.5%	102	0.6%	57	0.4%
	八代	140	0.7%	150	0.8%	140	0.7%	151	0.8%	130	0.8%
	芦北	24	0.1%	31	0.2%	41	0.2%	23	0.1%	15	0.1%
	球磨	52	0.2%	38	0.2%	65	0.3%	39	0.2%	31	0.2%
	天草	352	1.6%	386	2.0%	437	2.2%	433	2.3%	356	2.2%
熊本県外	416	1.9%	349	1.8%	292	1.5%	273	1.5%	164	1.0%	
合計	21,445	100.0%	19,575	100.0%	19,742	100.0%	18,656	100.0%	16,051	100.0%	

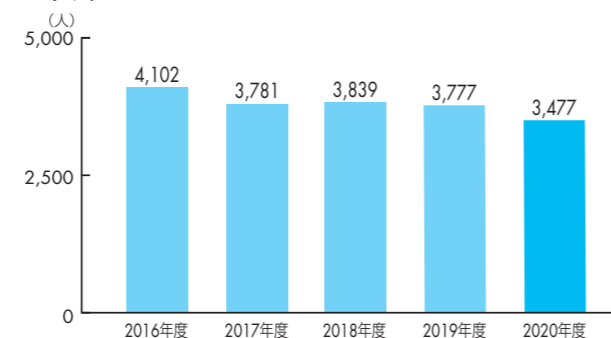
● 二次保健医療圏別



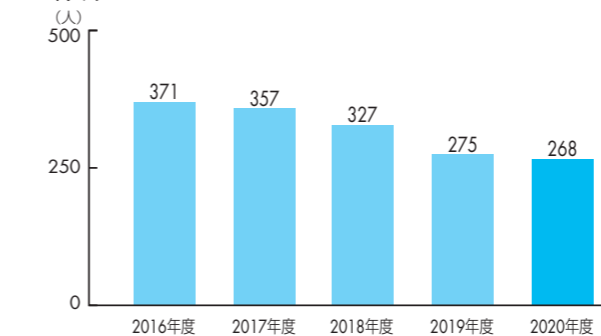
● 熊本・上益城



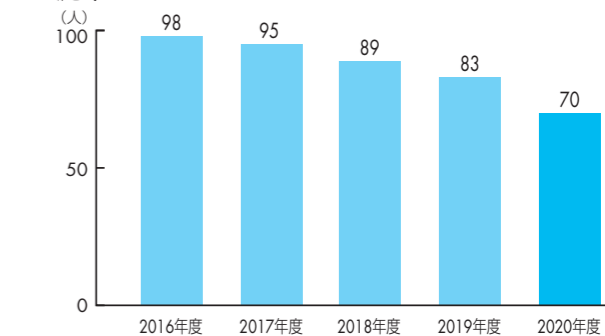
● 宇城



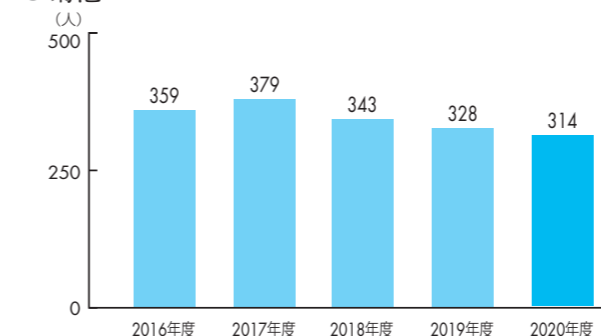
● 有明



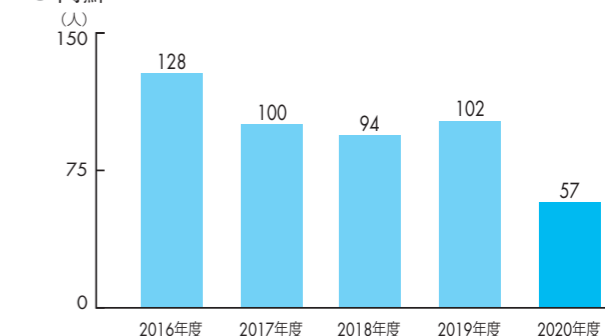
● 鹿本



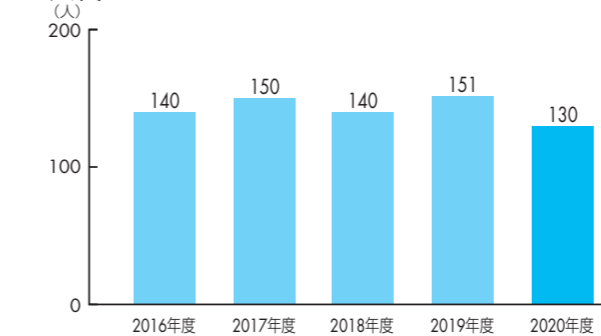
● 菊池



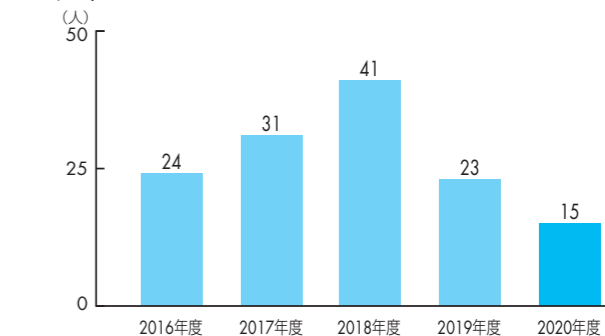
● 阿蘇



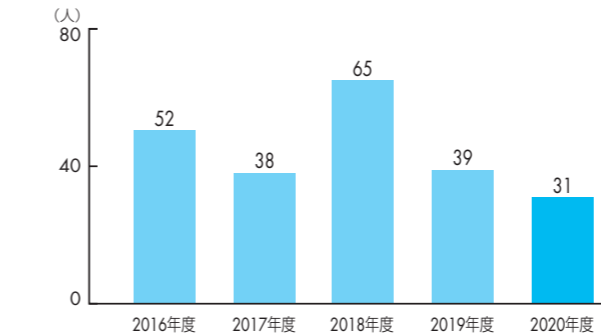
● 八代



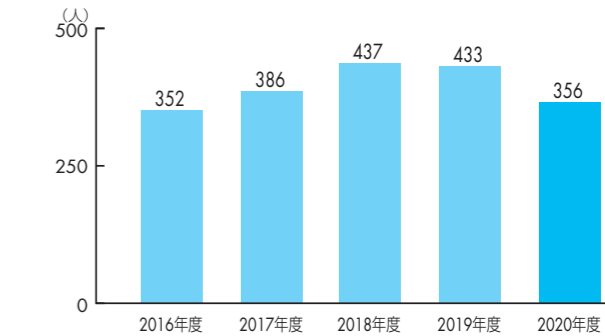
● 芦北



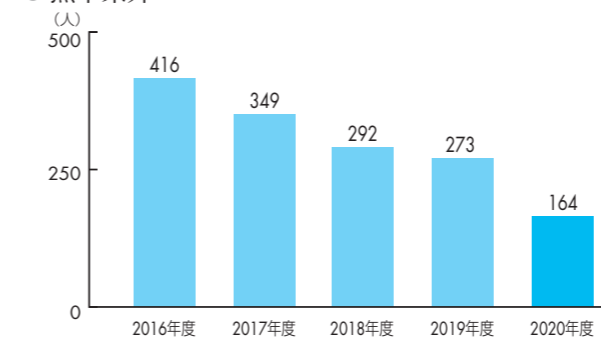
● 球磨



● 天草



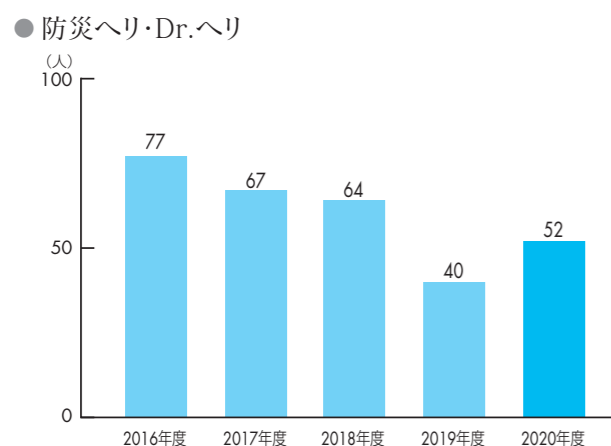
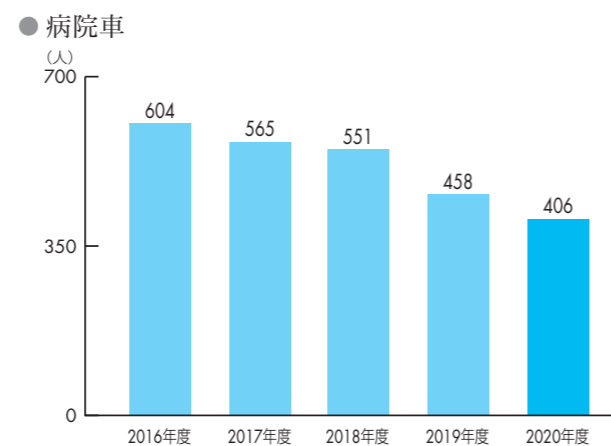
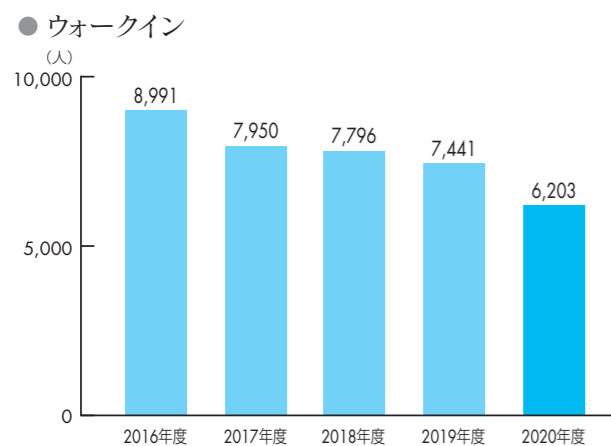
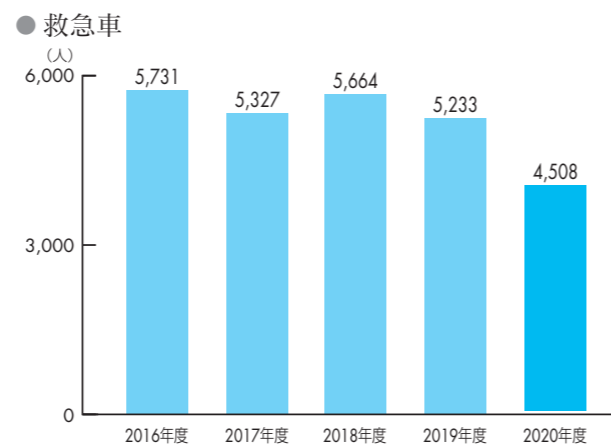
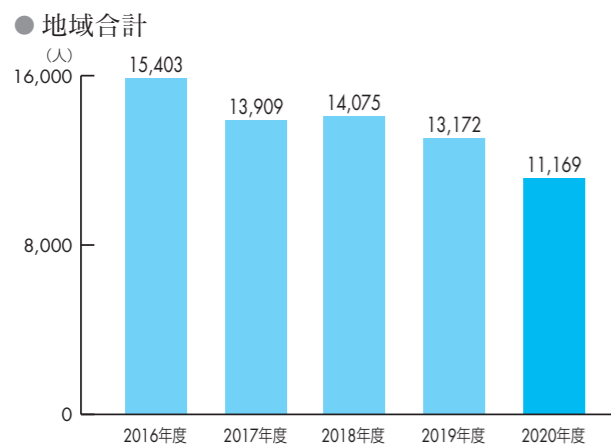
● 熊本県外



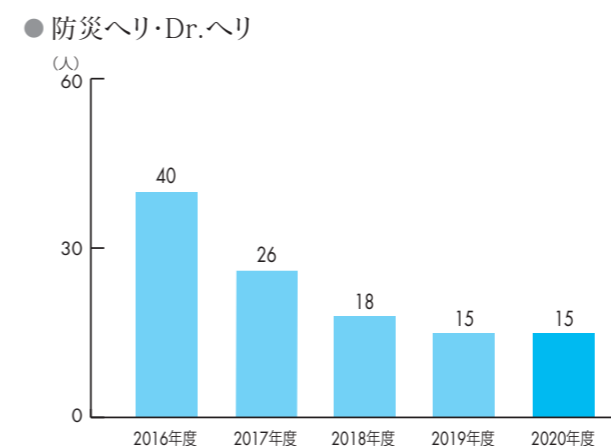
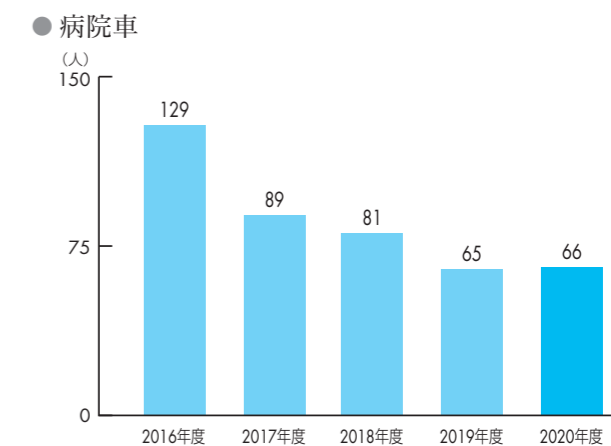
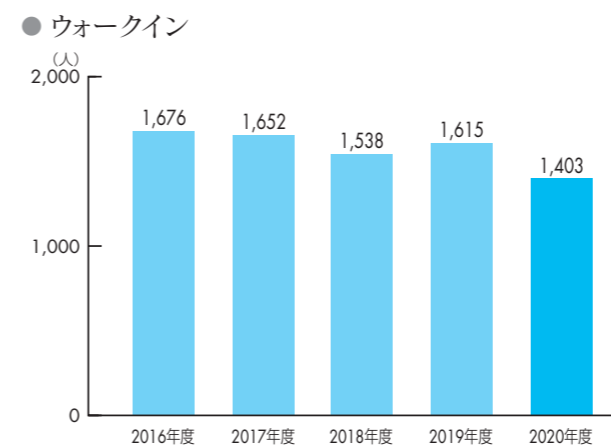
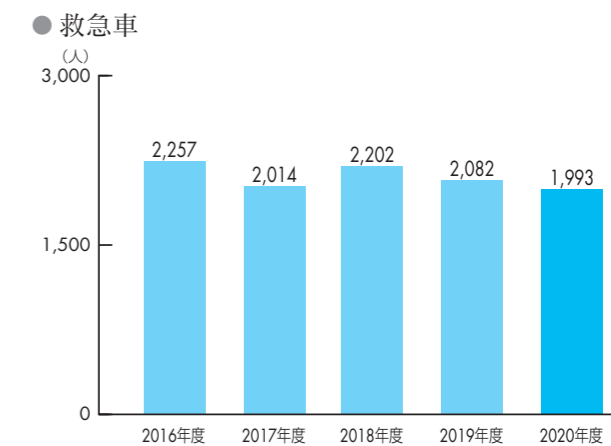
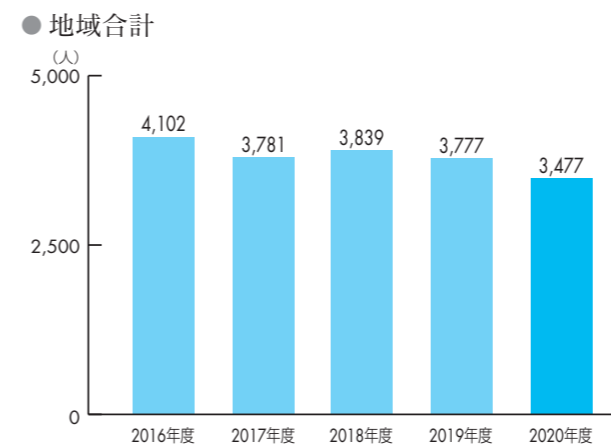
11 二次保健医療圏

11-2 来院手段別

熊本・上益城



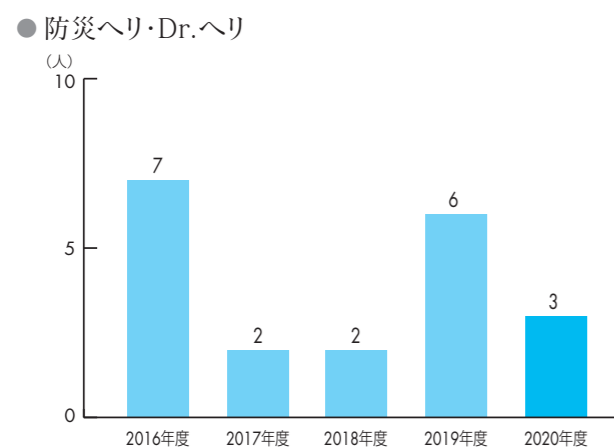
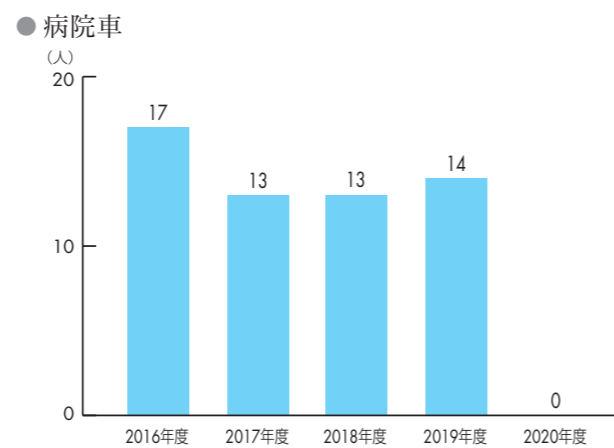
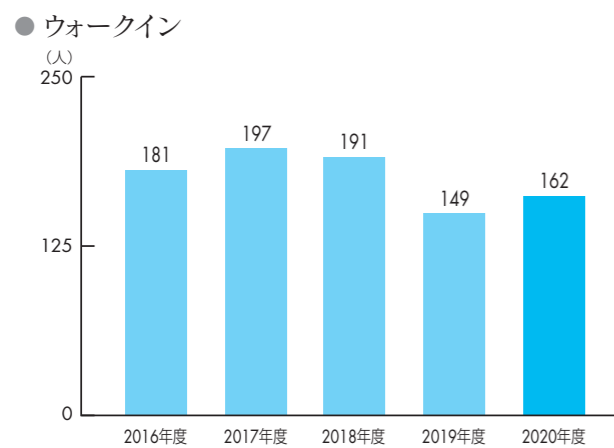
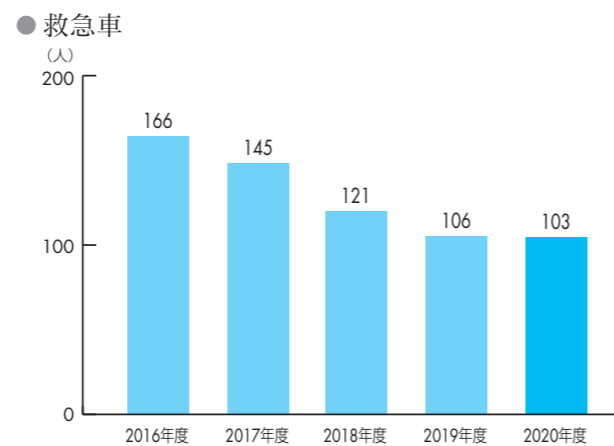
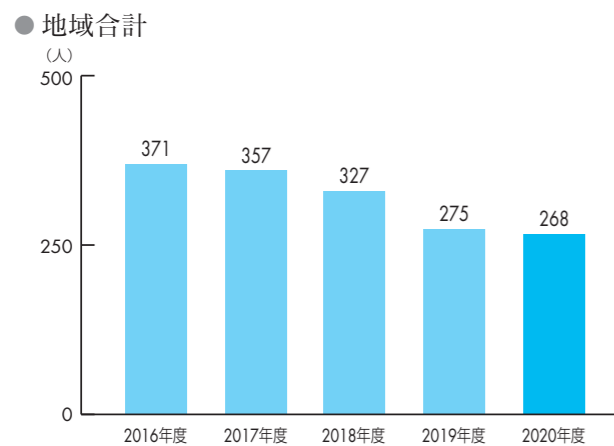
宇城



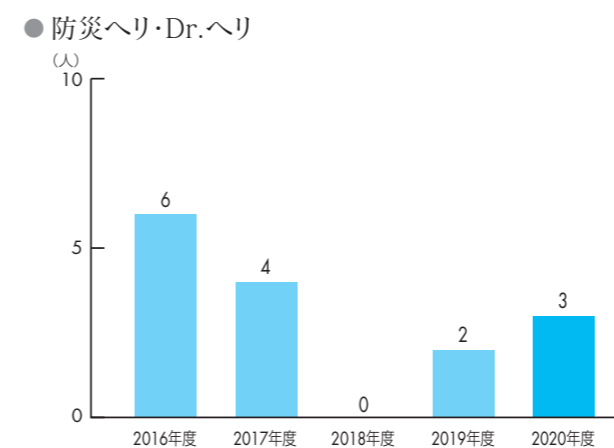
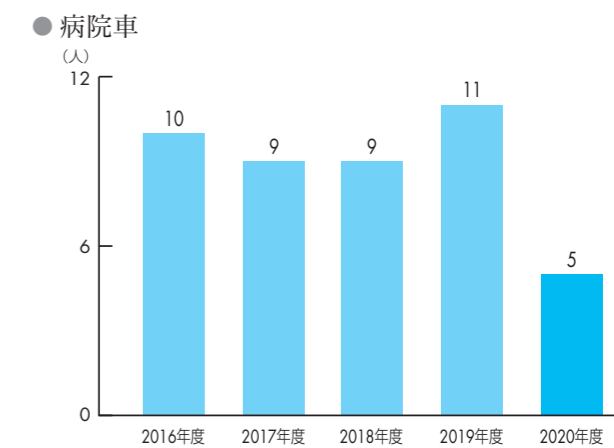
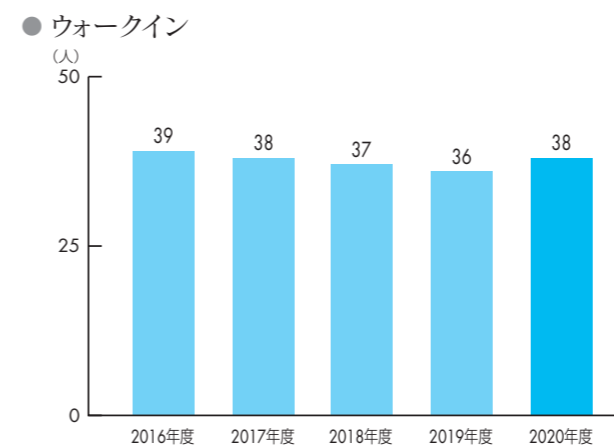
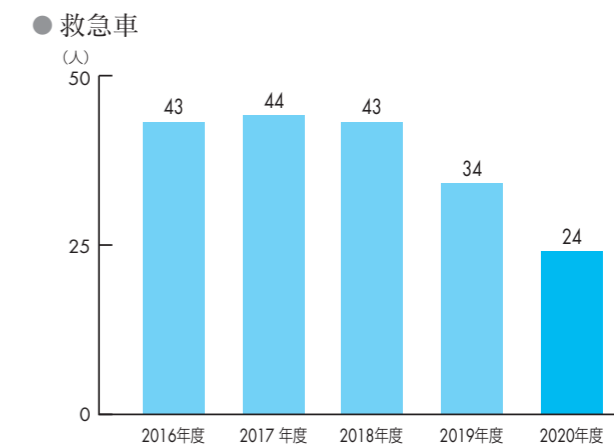
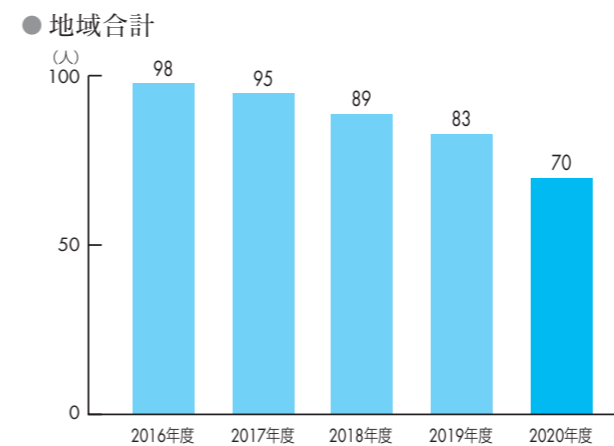
11 二次保健医療圏

11-2 来院手段別

有 明



鹿 本

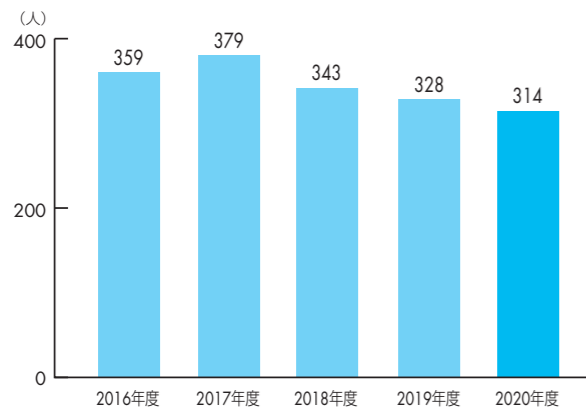


11 二次保健医療圏

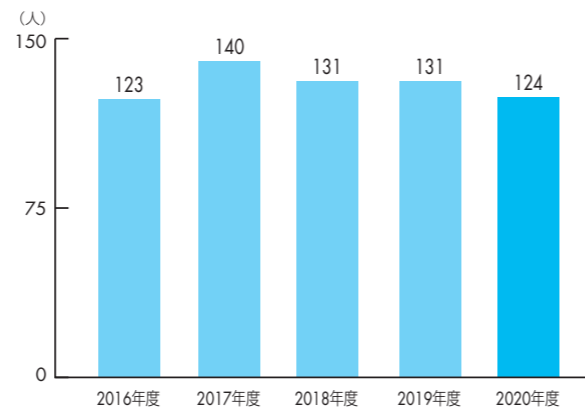
11-2 来院手段別

菊池

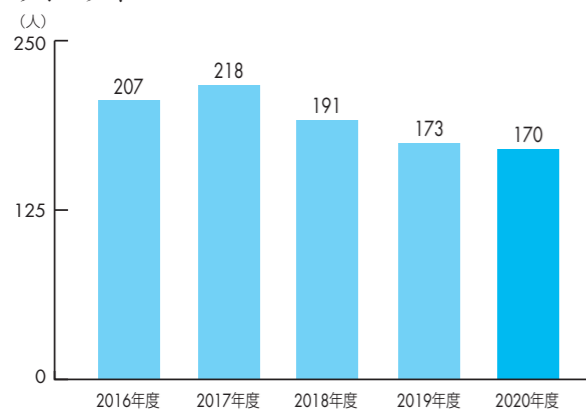
● 地域合計



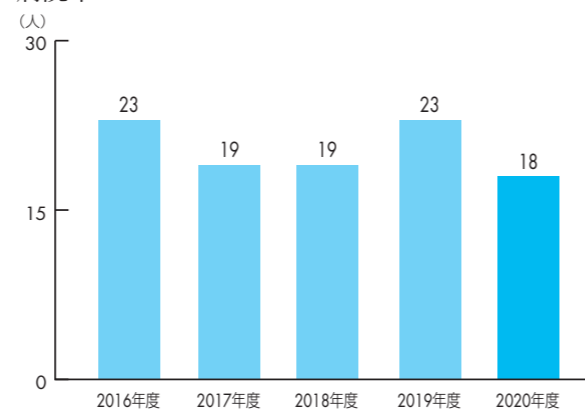
● 救急車



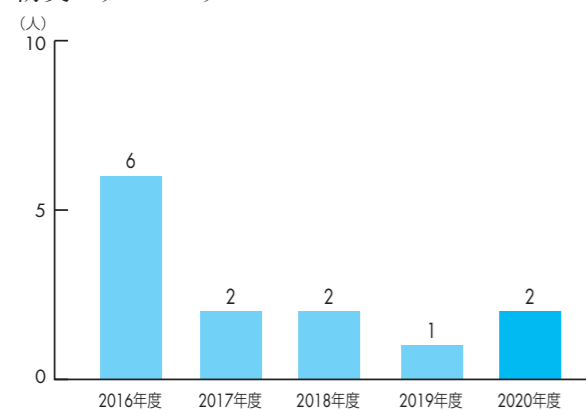
● ウォークイン



● 病院車

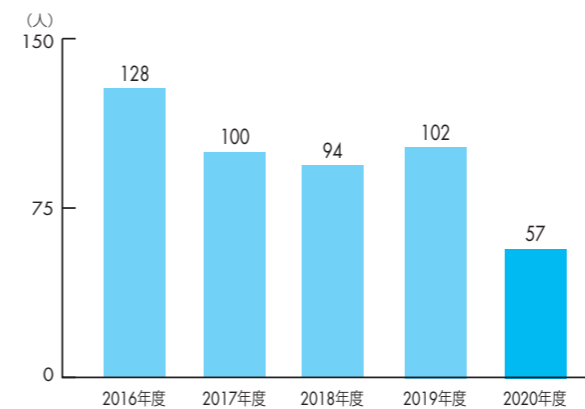


● 防災ヘリ・Dr.ヘリ

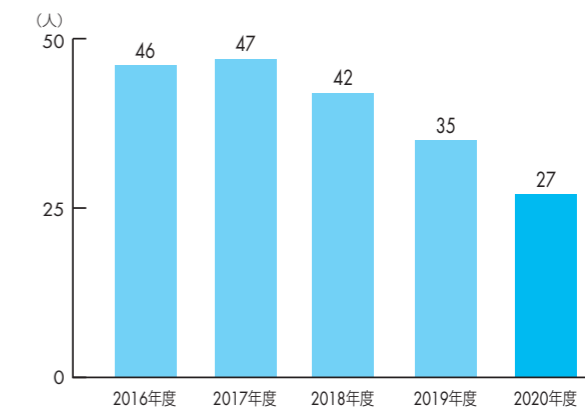


阿蘇

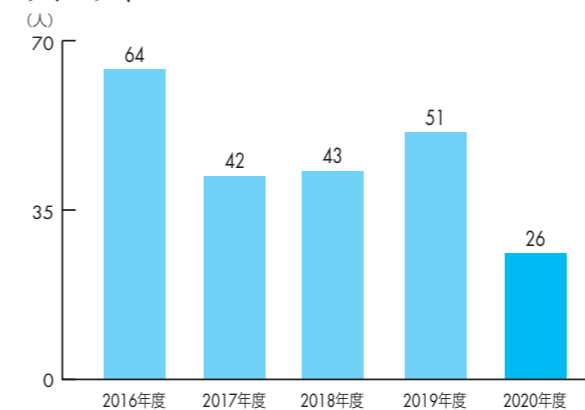
● 地域合計



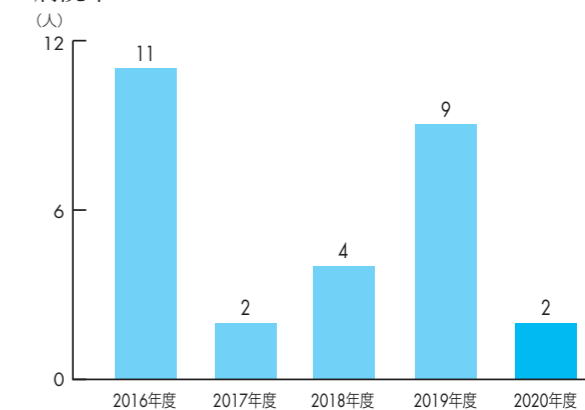
● 救急車



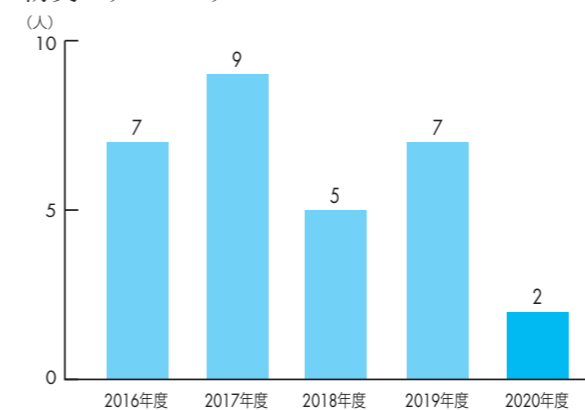
● ウォークイン



● 病院車



● 防災ヘリ・Dr.ヘリ

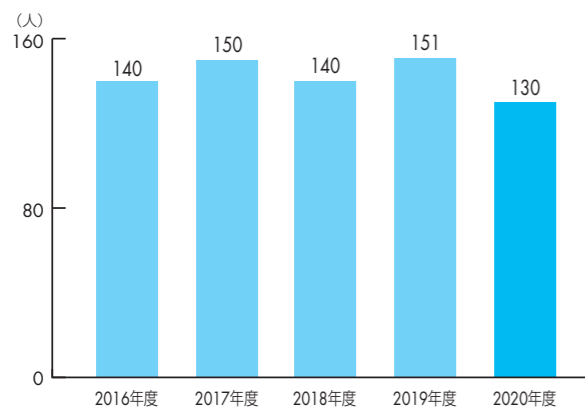


11 二次保健医療圏

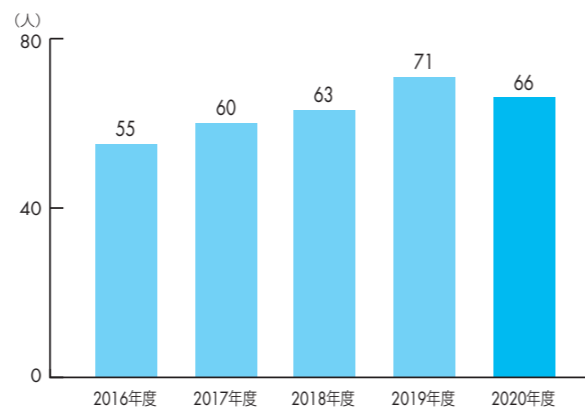
11-2 来院手段別

八代

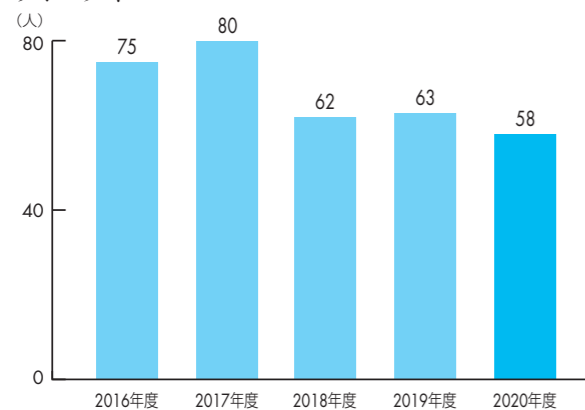
● 地域合計



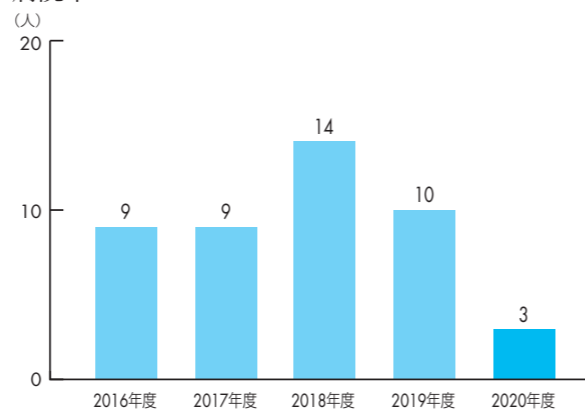
● 救急車



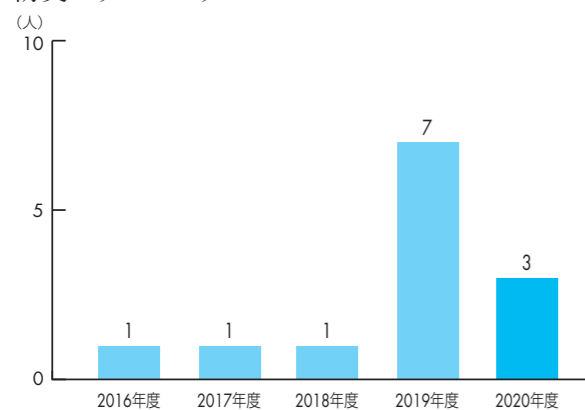
● ウォークイン



● 病院車

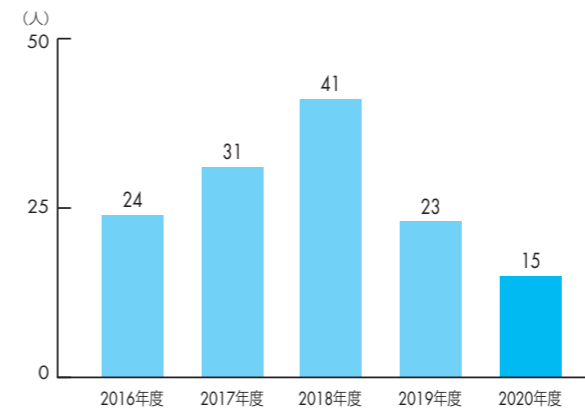


● 防災ヘリ・Dr.ヘリ

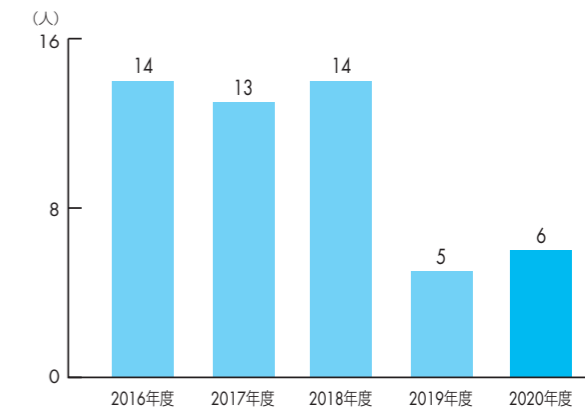


芦北

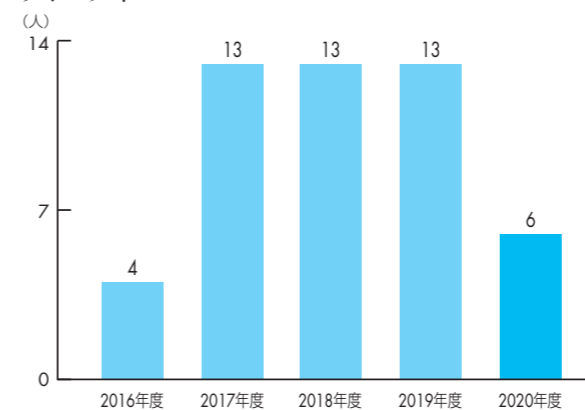
● 地域合計



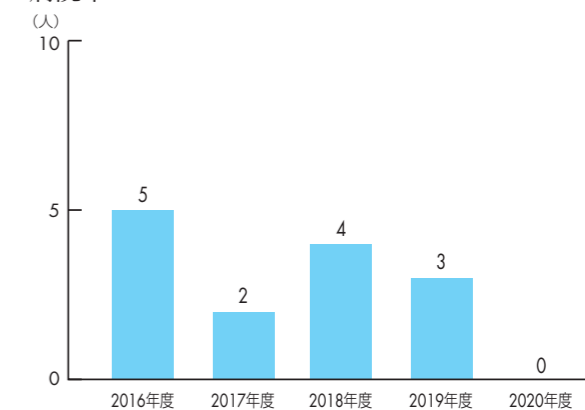
● 救急車



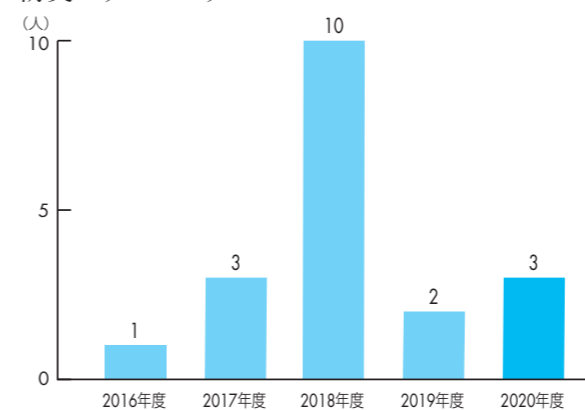
● ウォークイン



● 病院車



● 防災ヘリ・Dr.ヘリ

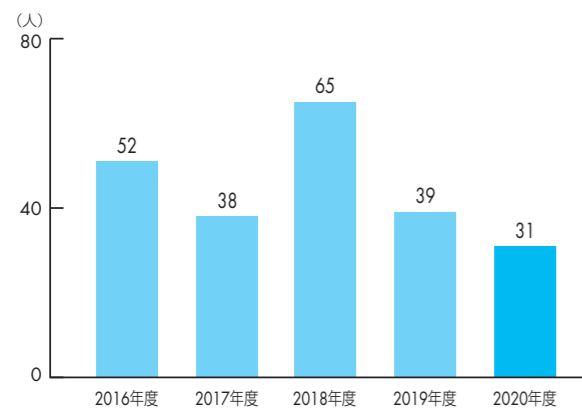


11 二次保健医療圏

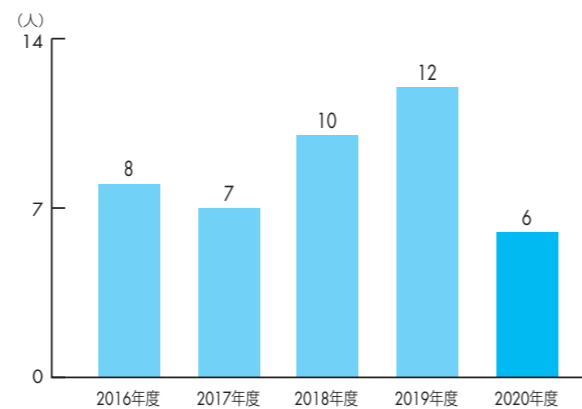
11-2 来院手段別

球磨

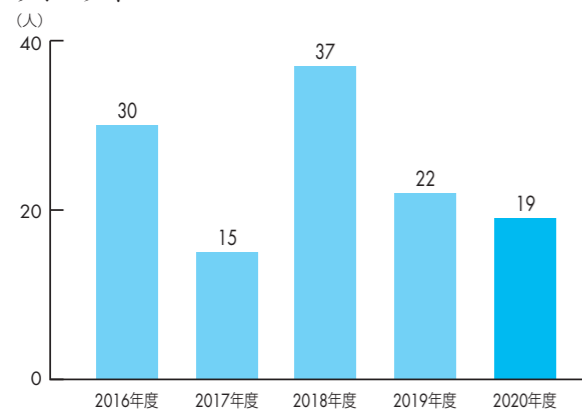
● 地域合計



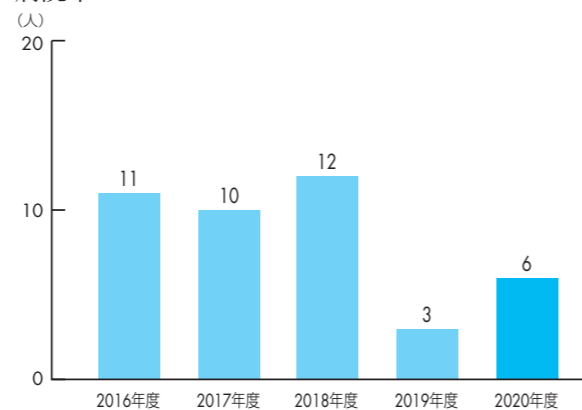
● 救急車



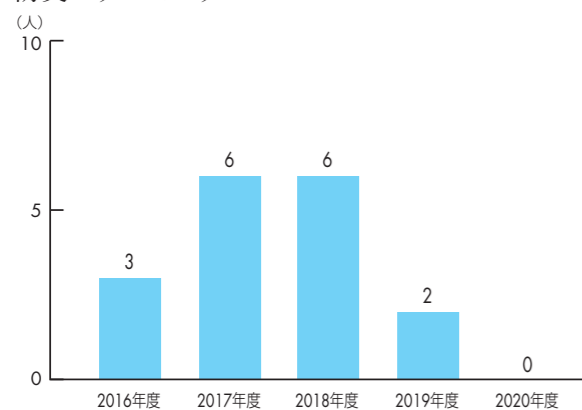
● ウォークイン



● 病院車

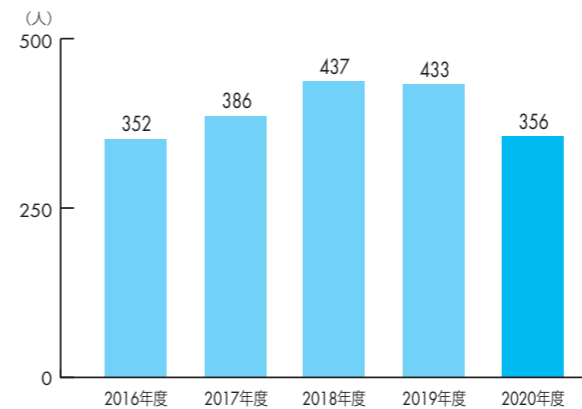


● 防災ヘリ・Dr.ヘリ

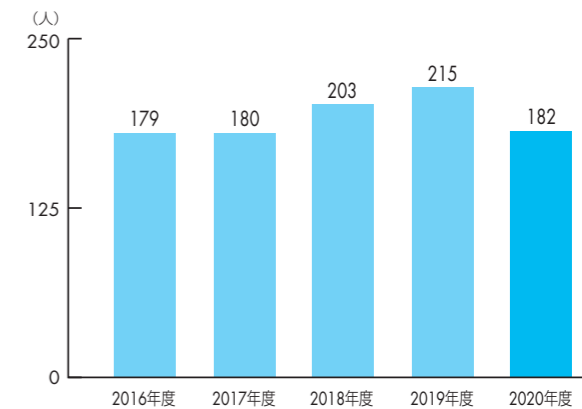


天草

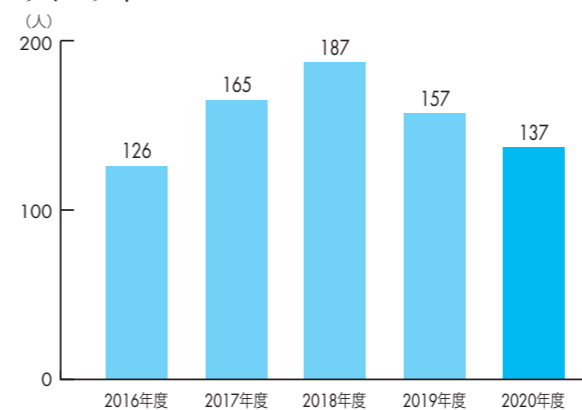
● 地域合計



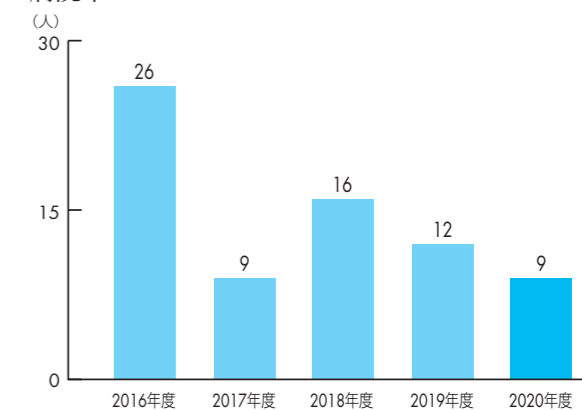
● 救急車



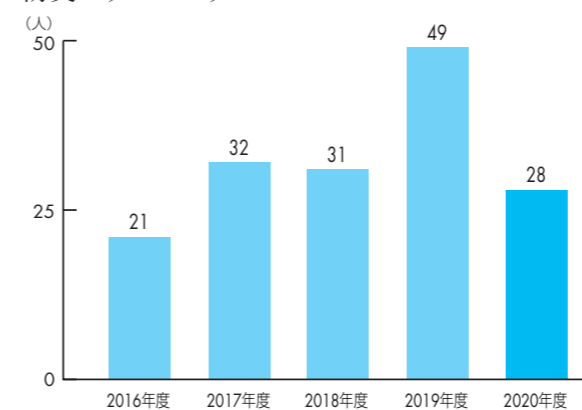
● ウォークイン



● 病院車



● 防災ヘリ・Dr.ヘリ

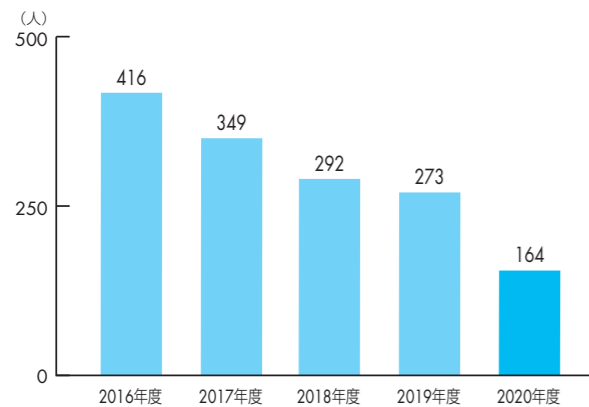


11 二次保健医療圏

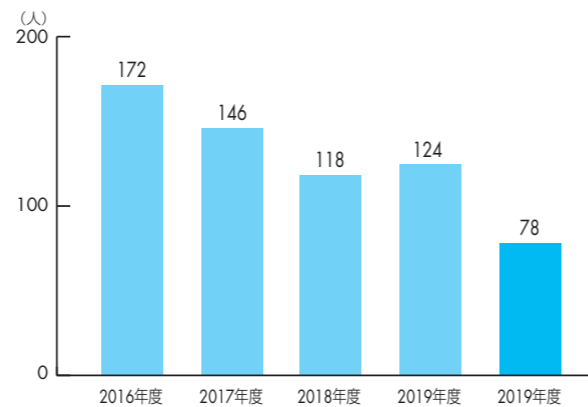
11-2 来院手段別

熊本県外

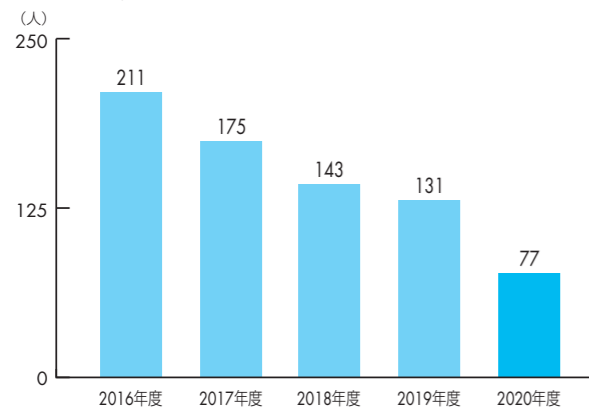
● 地域合計



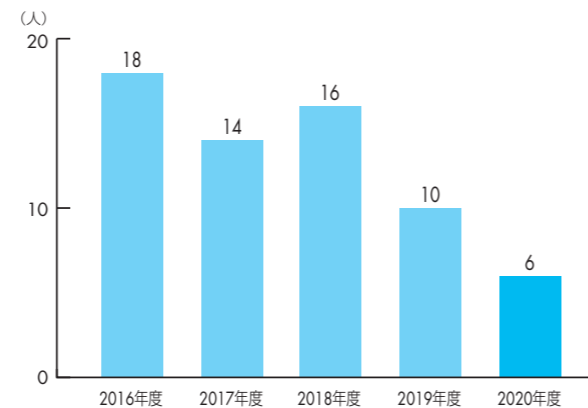
● 救急車



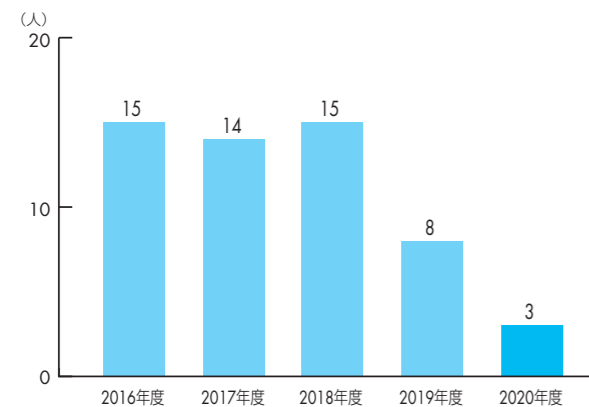
● ウォークイン



● 病院車



● 防災ヘリ・Dr.ヘリ



救急統計

The Statistics of The Emergency Medical Care

2020

—《記事》—

Contents

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) への対応	30
救命救急外来の改修工事	31
令和2年7月豪雨災害へのDMAT派遣	32
救急・災害医療対策室の新設	32
済生メディコン会のWEB開催	33

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) への対応

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に対する救命救急外来での対応は、疑似症患者の初療を行い、医療従事者の安全と確実な感染管理を徹底し、院内感染防止のための適切なトリアージを実施することが重要でした。市中感染が広がるにつれて、発熱・呼吸器症状のある救急搬送患者すべてに感染症対策に準じた対応を行いながら、COVID-19以外の急性疾患の受け入れも継続し、関わるスタッフへは感染防止に対する教育と体制整備を行いました。

COVID-19に対応するため、感染症の専門家を交えた委員会が発足され、確実な感染管理が実践出来るように空調設備や物品整備、COVID-19患者の受け入れ体制や有熱者の電話対応のフローを多職種・他部門とミーティングを重ね作成しました。看護体制では、発熱や疑似症患者に対応する看護師の役割分担と確実な感染管理を行い、適正な人員配置、安全性の担保ができるように患者状況に応じた柔軟な体制構築を行いました。看護師は重症患者の対応に加え、疑似症対応の緊張から不安の声も聞かれましたが、体制整備や適宜面談を行うことで、どのようにすれば感染管理が確実にい、効率的に動けるかなど意見やアイデアを出し合い、スタッフ主導で話し合う様子も見られました。感染防御対策は、医師や看護師、救急外来に関わる多職種に対し、感染管理認定看護師指導のもとPPE着脱のトレーニングを繰り返し、安全に対応出来るように取り組みました。

ハード面の整備では、重症患者を受け入れる処置室のゾーニングや動線確認、呼び出し機器の導入を行い、有熱者を院内に入れずに対応するコンテナハウスも設置しました。また、救急外来に陰圧室を3室設置し、発熱や呼吸器症状を伴う救急搬送患者は原則、陰圧室での対応としました。さらに、当院の役割である三次救命救急センターとして、COVID-19患者の心筋梗塞や脳卒中発症に対する緊急処置の体制構築を行い、各病棟や血管造影室、集中治療部門と連携を図り、受け入れ体制を整えました。定期的に受診状況をモニタリング・評価を行う事で、確実な感染管理と安全な患者対応が出来る人員調整を多職種と検討することができました。

今後も感染予防を徹底するとともに、高度専門医療を担う病院として患者や医療従事者の安全に配慮しながら、質の高い救急医療に努めていきたいと思えます。

救命救急外来師長 荒木裕子

救命救急外来の改修工事

救命救急センターの入口である救命救急外来は、多くの患者さんが来院し、感染リスクの高い部門になります。救命救急外来で適切な感染対策を行なうことが、リスクマネジメントとして有効な手段であり、感染対策を重視した集中的な改修工事を実施しました。具体的には、有熱者用コンテナハウス (個室) の設置・陰圧室 (3室) の増設・ドアのフットスイッチ化 (非接触化) ・感染用医療材料棚の設置・デジタルサイネージ (有熱者用案内板) の設置・その他感染対策機器の導入等、多くのインフラ整備を行いました。

また、物的な感染対策に加え、感染症の専門家を交えた委員会を発足し、早期に感染対策マニュアルを整備し、実際に勤務する医師・看護師・事務等の感染対策が徹底されたことで、年間1万6,000人以上の救急患者を受け入れながら、クラスター等の院内蔓延は発生しておらず、24時間365日体制で救急患者の受入をおこなっています。

救命救急支援室 熊谷有祐



有熱者用コンテナハウスを設置



陰圧室 (3室) を増設



感染用医療材料棚を設置



デジタルサイネージ (有熱者用案内板) を設置

令和2年7月豪雨災害へのDMAT派遣

令和2年7月豪雨災害への支援として、2020年7月4日~7月26日の延べ14日間、八代・芦北・人吉・球磨地域へ、当院DMAT4チーム延べ18名を派遣し、災害支援活動を行いました。また、県災害対策本部(県庁)にも救命救急センター長の前原を始め、業務調整員3名を交替で派遣しました。

派遣先の災害拠点本部では、当院医師が災害対策本部長を務め、看護師と業務調整員は八代・芦北・水俣地域の避難所調査と老健施設のスクリーニング作業等に尽力しました。また、4チーム目は人吉球磨地域に入り、球磨村診療所の立ち上げ支援やウォークイン患者への対応等の被災地支援を行いました。

今後も災害拠点病院のDMATチームとして有事に備えるとともに、この経験を当院の災害対応へ活かしていきたいと思っております。

救命救急支援室長 山下 正



済生メディコン会のWEB開催

毎月第3水曜日に開催している済生メディコン会も2020年度末で246回を数えました。

毎回、隣接地域の消防本部から多数の参加があり、活発な意見交換を行い、顔の見える関係構築に大変有効な症例検討会でしたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、WEBによるリモートでの意見交換が必要となりました。

当初、接続の不具合や不慣れな操作等でなかなか活発な意見交換ができず大変ご迷惑をおかけしましたが、各消防本部のご協力のもとWEB開催も軌道に乗り、コロナ禍以前の様な有効な症例検討会の開催が可能となりました。

今後は会場参加とWEB視聴のハイブリッド方式でより多くの消防関係者が参加できるよう工夫し改善していきますので、これからも済生メディコン会を宜しくお願い致します。

救急・災害医療対策室 瀧下恭司



救急・災害医療対策室の新設

救急隊との連携強化、救急救命士の活躍拡大、災害医療対策や転院搬送の質向上を目的に、2021年4月より新たに「救急・災害医療対策室」を発足しました。室員は4名で構成され、うち3名が消防の勤務経験がある救急救命士です。

入院患者の半数以上が救命救急外来を経由する患者であり、三次救急を担う済生会熊本病院にとって救急隊との連携強化は欠かせないテーマです。また、救急救命士が行える救命処置はこれまで病院前までに限定されていましたが、2021年10月から改正救急救命士法が施行され、業務拡大により救命救急外来でも救急救命士としての業務が可能となり、今後ますますの活躍が期待されます。

他に、当室の主な業務に転院搬送があり年間約600件実施しています。救急車を4台所有し日々車輦や装備の点検を行い、搬送前には医師や看護師と患者さんの症状やリスクなどの情報を共有するなど、安全な搬送業務に取り組んでいます。また、災害発生時の災害医療対策やDMAT派遣時の後方支援も担当します。

救急・災害医療対策室長 金子忠明



※新型コロナウイルス感染症の影響により、定例で開催していた4Rメディカルラリーは一時休止としています。再開に向けた準備を進めていますので、感染状況が改善した際には、あらためてご報告させていただきます。

2020

救急統計



編集発行	社会福祉法人 ^{恩賜} 財団済生会熊本病院
作成月	2021/12
編集責任者	中尾 浩一(院長) 前原 潤一(救命救急センター長)
作成部署	救命救急支援室